

システム名	MSP
ソフトウェア 略称	PF-EXS23
適用 バージョン・レベル	V23L21
製品コード	A9316823-2321-1

ソフトウェア説明書

OSIV/MSP SIMPLIA/PF-EXSPEC V23

ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

S I M P L I A / P F - E X S P E C V 2 3

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

本ソフトウェアのインストレーションを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せのうえ、インストレーションを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次の通りです。

- ◆参照 → 本書の中の参照箇所を示しています。
- ◆【】 “適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。
例：◆【1】 1.2 …… “適用マニュアル”第1項のマニュアルの1.2 を参照。

2016年 9月

富士通株式会社

目 次

1. 機能概要	1
2. 構成プログラム	1
3. 適用マニュアル	2
4. 新機能	2
5. 移行上の注意	8
6. 制限事項	12
7. ソフトウェア組合せ条件	14
8. 入出力装置	15
9. 提供媒体形式と内容	15
10. D A S D所要量	17
11. インストラクションの手引	18
12. 適用マニュアルの正誤表	35
13. プログラム修正事項	62

1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

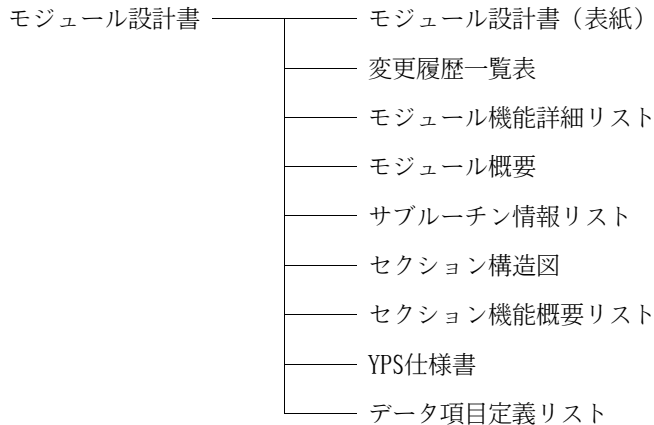
詳細は、本書の” 3. 適用マニュアル” に記載のマニュアルを参照する。

OSIV/MSP SIMPLIA/PF-EXSPEC (SIMple development and maintenance support Program Libraries for Application system/Program design Facility of EXtended program SPECification output tool) (以降 EXSPECと呼ぶ) は、YPS 仕様書、エディタ上部品を解析し、その解析情報を基にドキュメントを出力するものである。

EXSPECには以下の機能がある。

1. 1 モジュール設計書出力機能

モジュール設計書を自動出力する。

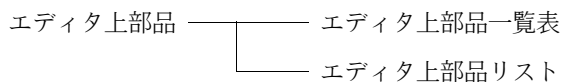


1. 2 YPS モジュール一覧表出力機能

YPS 仕様書の解析情報を一覧表形式でドキュメント出力する。

1. 3 エディタ上部品出力機能

ホスト上のエディタ上部品を解析し、一覧表及び、部品リストをドキュメント出力する。



1. 4 YPS ステップカウント出力機能

YPS 仕様書を解析し、仕様書中の有効ステップ数、注釈ステップ数及び、YPS 仕様書で使用しているコピー句、YPS インクルード句のステップ数をドキュメント及び、CSV 形式ファイルに出力する。

2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	モジュール設計書出力プログラム	JSMY0700	V23L21	
2	YPS モジュール一覧表出力プログラム	JSMY0710	V23L21	
3	YPS ステップカウント出力プログラム	JSMY0720	V23L21	
4	エディタ上部品出力プログラム	JSMY0730	V23L21	

3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示す通りである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	OS IV SIMPLIA/PF-EXSPEC解説書 V23用	J1M0-9880-02	

4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョン・レベルに対して次のような機能追加及び改良が行われている。

4. 1 V20L20で行われた機能追加・改良点

4. 1. 1 コメントキーワードカスタマイズ機能の追加

外部ファイルに標準のコメントキーワードに対してカスタマイズしたいキーワードを記述することにより、コメントキーワードをカスタマイズすることができるようにした。

4. 1. 2 PARMパラメタの追加

以下のパラメタを追加した。各パラメタの詳細は解説書を参照されたい。

4. 1. 2. 1 モジュール概要出力モードパラメタ (NG)

4. 1. 3 SYSIN 制御文の追加・削除

以下のSYSIN 制御文を追加・削除した。各SYSIN 制御文の詳細は解説書を参照されたい。

4. 1. 3. 1 追加した制御文

- (1) GROUP 制御文のメンバ名指定オペランド (MEM=)

4. 1. 3. 2 削除した制御文

- (1) GROUP 制御文のトランザクション指定オペランド (TRN=)

4. 1. 4 実行JCL の変更

4. 1. 4. 1 モジュール設計書出力機能

- (1) 以下のDD文を追加した。

JSMYDU04 : コメントキーワードカスタマイズファイルを指定する。
不要の場合はDUMMY 指定する。

JSMYLIST : EXSPEC用の作業用データセット。通常はDUMMY を指定する。

JSMYWK01~02 : EXSPEC用の作業用データセット。通常はDUMMY を指定する。

4. 1. 4. 2 YPS モジュール一覧表出力機能

- (1) 以下のDD文を追加した。

JSMYDU04 : コメントキーワードカスタマイズファイルを指定する。
不要の場合はDUMMY 指定する。

JSMYLIST : EXSPEC用の作業用データセット。通常はDUMMY を指定する。

4. 1. 4. 3 エディタ上部品出力機能

- (1) 以下のDD文を追加した。

JSMYLIST : EXSPEC用の作業用データセット。通常はDUMMY を指定する。

4. 2 V21L10で行われた機能追加・改良点

4. 2. 1 出力時刻の表示

全てのドキュメントに出力時刻を表示するようにした。

4. 2. 2 日本語変換機能の追加

日本語名標辞書を作成することにより、A/N のYPS 仕様書を日本語でドキュメント出力できるようにした。

4. 2. 3 ドキュメントの追加

モジュール機能詳細、セクション機能概要の2つのドキュメントを追加した。

4. 2. 4 PARMパラメタの追加

以下のパラメタを追加した。各パラメタの詳細は解説書を参照されたい。

4. 2. 4. 1 SIZEパラメタ(SIZE(4), (n))

4. 2. 5 SYSIN 制御文の追加・削除

以下のSYSIN 制御文を追加・削除した。各SYSIN 制御文の詳細は解説書を参照されたい。

4. 2. 5. 1 追加した制御文

- (1) REPORT制御文のモジュール機能詳細出力指定オペランド(Detail)
- (2) REPORT制御文のセクション機能概要出力指定オペランド(Outlin)
- (3) JISYO 制御文による日本語名標出力指示

4. 2. 6 実行JCL の変更

4. 2. 6. 1 モジュール設計書出力機能

- (1) JCL が2ステップに分割された。

4. 3 V22L10で行われた機能追加・改良点

4. 3. 1 YPS V11 の対応

4. 3. 2 担当者名の出力文字数の変更

5文字から6文字に変更した。

4. 3. 3 EXSPEC用コメントの追加(RDB II 情報定義, 外部画面情報定義, 外部ファイル情報定義)

4. 3. 4 ドキュメントの追加

サブルーチン情報のドキュメントを追加した。

4. 3. 5 ドキュメントのレイアウト変更

4. 3. 5. 1 変更履歴一覧表

変更内容に出力される1行の文字数を多くした。

4. 3. 5. 2 モジュール概要補助シート

補助シートを1, 2に分割した。さらにYPS仕様書中に記述されているYPSインクルード句及びコピー句の情報を追加した。

4. 3. 5. 3 YPS 仕様書

YPS 仕様書において、変更履歴部の出力抑制を可能とした。またパラメタの指定によってデータ項目定義リスト・左右分割出力・コピー句及びYPS インクルード句展開出力を可能とした。

4. 3. 6 PARMパラメタの追加

以下のパラメタを追加した。各パラメタの詳細は解説書を参照されたい。

4. 3. 6. 1 YPS バージョンレベル宣言パラメタ(YPSVL=V11, V10)

YPS のバージョンレベルを指定するパラメタである。

4. 3. 6. 2 データ項目定義リスト出力宣言パラメタ (DATA/NODATA)

YPS 仕様書を出力する際に手続き部以前をデータ項目定義の形式で出力するパラメタである。

4. 3. 6. 3 YPS 仕様書変更履歴部未出力パラメタ (NF)

YPS 仕様書を出力する際に、変更履歴部を出力しないようにするパラメタである。

4. 3. 6. 4 コピー句及びYPS インクルード句展開宣言パラメタ (COPY/NOCOPY)

YPS 仕様書を出力する際に、コピー句及びYPS インクルード句を展開するパラメタである。

4. 3. 6. 5 YPS 仕様書左右分割宣言パラメタ (SPLIT)

YPS 仕様書を出力する際に、1 ページに左右 2 列の出力を行うパラメタである。

4. 3. 6. 6 YPS 仕様書ライブラリパスワード指定パラメタ (PW=YPS 仕様書ライブラリパスワード)

解析対象のYPS 仕様書ライブラリがGEM であつ、パスワード保護されている場合に指定するパラメタである。

4. 3. 6. 7 コピー句及びインクルード句出力抑制宣言パラメタ (NOINC)

モジュール設計書のモジュール概要において、コピー句及びYPS インクルード句の情報出力を抑制するパラメタである。

4. 3. 7 SYSIN 制御文の追加・削除

以下のSYSIN 制御文を追加した。各SYSIN 制御文の詳細は解説書を参照されたい。

4. 3. 7. 1 OVL 制御文

オーバーレイ IDの変更を行う制御文である。従来はPARM文でしかオーバーレイ IDの変更が出来なかったがSYSIN 制御文でも指定可能とした。

4. 3. 7. 2 CPW 制御文

使用するコピーライブラリがGEM で、かつパスワード保護されている場合にパスワードを指定できるようにした。

4. 3. 7. 3 IPW 制御文

使用するYPS インクルードライブラリがGEM で、かつパスワード保護されている場合にパスワードを指定できるようにした。

4. 3. 8 実行JCL の変更

4. 3. 8. 1 モジュール設計書出力機能

(1) モジュール設計書出力機能のJCL が1 ステップ (JSMY0700) に集約された。

(2) 使用するJCL をYPS のバージョンレベルによって使い分けが必要となった。◆参照 → 11.5, 11.6

(3) 以下のDD文を追加した。またYPS V11 を使用する場合はYPS/COBOL が内部的に使用するデータセットを指定する。データセットの詳細については解説書を参照されたい。

JSMYC001~04 : 使用するコピーライブラリが複数で、かつGEM の場合に指定する。

JSMYIN01~04 : 使用するYPS インクルードライブラリが複数でかつGEM の場合に指定する。

JSMYWK03~04 : EXSPEC用の作業用データセットを指定する。

(3) 以下のDD文を削除した。

JSMYDU02, JSMYTBPG, JSMYTBGR

4. 3. 8. 2 YPS モジュール一覧表出力機能

(1) 以下のDD文を追加した。

JSMYWK01~02 : EXSPEC用の作業用データセットを指定する。

- (2) 以下のDD文を変更した.

SORT01 ⇔ SORTWK01

SORT02 ⇔ SORTWK02

SORT03 ⇔ SORTWK03

4. 3. 8. 3 エディタ上部品出力機能

- (1) 使用するJCL をYPS のバージョンレベルによって使い分けが必要となった. ◆参照 → 11.7, 11.8

- (2) 以下のDD文を追加した.

JSMYWK01~02 : EXSPEC用の作業用データセットを指定する.

JSMYD104 : 日本語名標辞書を使用する場合に指定する.

- (3) 以下のDD文を削除した.

JSMYDU04

4. 4 V22L20で行われた機能追加・改良点

4. 4. 1 実行JCL の変更

4. 4. 1. 1 モジュール設計書出力機能

- (1) 以下のDD文のレコード長, ブロック長を変更した.

JSMYDU01:7494, 7494 ⇔ 3700, 29600

JSMYDU03:1401, 14010 ⇔ 1401, 30822

JSMYDU05:227, 2270 ⇔ 227, 31780

4. 4. 1. 2 YPS モジュール一覧表出力機能

- (1) 以下のDD文のレコード長, ブロック長を変更した.

JSMYDU01:7494, 7494 ⇔ 3700, 29600

JSMYDU02:326, 3260 ⇔ 326, 31948

4. 4. 1. 3 エディタ上部品出力機能

- (1) 以下のDD文のレコード長, ブロック長を変更した.

JSMYDU01:277, 2770 ⇔ 277, 31855

4. 5 V22L30で行われた機能追加・改良点

4. 5. 1 ヘッダ部の出力文字数の変更

システム名, サブシステム名, ジョブ名, プログラム名を12文字から15文字に変更した.

4. 5. 2 媒体の判定基準の変更

ファイル情報定義に記述する「媒体」欄が空白の場合, DASDと判定するように変更した.

4. 5. 3 オープン命令の複数モード対応

1つのオープン文で複数モードの解析を可能とした.

4. 5. 4 PARMパラメタの追加

YPS 図記号の英語表記対応を行い, 以下のPARMパラメタを追加した.

4. 5. 4. 1 YPS 図記号表示パラメタ (PLANG=J, E)

YPS 図記号の出力モード (日本語図記号, 英語図記号) を指定するパラメタである.

4. 6 V23L10で行われた機能追加・改良点

4. 6. 1 ヘッダ部の作成日時の出力桁数の変更

ヘッダ部の作成日時の年の出力桁数を2桁から4桁に変更した.

- 4. 6. 2 フッタ部の変更日付の出力桁数の変更
フッタ部の変更日付の年の出力桁数を2桁から4桁に変更した。
- 4. 6. 3 変更履歴一覧表の変更日付の出力桁数の変更
変更履歴一覧表の変更日付の年の出力桁数を2桁から4桁に変更した。
- 4. 6. 4 YPS モジュール一覧表の最終修正日・変更日付の出力桁数の変更
YPS モジュール一覧表の最終修正日・変更日付の年の出力桁数を2桁から4桁に変更した。
- 4. 6. 5 YPS ステップカウント出力機能の追加
 - 4. 6. 5. 1 SIMPLIA/MF-PROCOUNT 機能の統合
YPS 仕様書及び仕様書が使用しているコピー句、YPS インクルード句または外部日本語名標宣言仕様書、外部構文定義仕様書のステップ数を計測することができるようにした。 ◆【1】 2.1, 2.7
 - 4. 6. 5. 2 CSV ファイル出力機能
YPS ステップカウント出力内容を、CSV ファイルへ出力可能とした。
 - 4. 6. 6 呼出し条件一覧の抑止
呼出し条件一覧のドキュメントを抑止し、セクション構造図のみ出力することができるようにした。 ◆【1】 2.1, 2.4
 - 4. 6. 7 VSP シリーズプリンタ出力確認
VSP シリーズプリンタへのドキュメント出力を確認した。 ◆参照 → 8
- 4. 7 V23L20で行われた機能追加・改良点
 - 4. 7. 1 履歴情報定義の解析仕様変更
 - 4. 7. 1. 1 履歴情報定義にキーワード（変更履歴など）以外何も記述されていない行が存在した場合、その行より後の履歴情報は解析対象とならなかったが、解析対象となるようにした。
 - 4. 7. 2 YPS ステップカウント出力機能の改善
 - 4. 7. 2. 1 YPS ステップカウント出力機能の帳票において、ステップ数の出力桁数を7桁から8桁に拡張した。
 - 4. 7. 2. 2 YPS ステップカウント出力機能の帳票と同じ出力項目を出力する新形式のCSV ファイルを追加した。
 - 4. 7. 2. 2. 1 新形式のCSV ファイルを出力するためのPARMパラメタを追加した。
 - (1) CSV ファイル形式指示パラメタ(CSV(L,2))
CSV ファイルの出力形式をV23L10の旧形式で出力するか(CSV(1))、V23L20の新形式で出力するか(CSV(2))を指定する。
 - 4. 7. 3 GEM ライブラリパスワードのマスク化
 - 4. 7. 3. 1 GEM ライブラリパスワードを指定できる新たなSYSIN 制御文を追加した。
 - (1) YPS 仕様書ライブラリパスワード指定(YPW)
 - (2) 外部日本語名標ライブラリパスワード指定(NPW)
 - (3) 外部構文定義ライブラリパスワード指定(KPW)
 - 4. 7. 3. 2 SYSIN 制御文で指定されたGEM ライブラリパスワードは、マスクした状態で制御文リストに出力するようにした。
 - 4. 7. 4 YPS 仕様書記述規約におけるCOPY命令及び取込みの制限緩和

- 4. 7. 4. 1 COPY命令及び取込みの複数行記述をサポートした。ただし、モジュール設計書出力機能においては、キーワードまたは取込み名を8行以内に記述する必要がある。
- 4. 7. 4. 2 COPY命令の記述形式(COBOL 記述)で以下の書き方を可能とした。
 - (1) †COPY コピー句名-1 REPLACING 文字列-1 BY 文字列-2
 - (2) COPY コピー句名-1 REPLACING 文字列-1 BY 文字列-2 (目的言語での記述)
- 4. 7. 4. 3 COPY命令において、コピー句名に全角英数字及び日本語名標を許していなかった記述形式に対して、その制限を解除した。
- 4. 7. 5 プロフィール通知

EXSPECの製品情報を通知するプロフィール通知を提供した。通知情報は、ツール名、V/L、修正No、修正日付、修正時刻、実行ユーザID、実行日付、及び実行時間である。
- 4. 8 V23L21で行われた機能追加・改良点
 - 4. 8. 1 SYSIN 制御文の追加

以下のSYSIN 制御文を追加した。SYSIN 制御文の詳細は解説書を参照されたい。

 - 4. 8. 1. 1 FCB 制御文

用紙制御イメージ識別名(FCB)を指定できるようにした。
 - 4. 8. 2 ADJUST用FCB制御文の提供

標準的な6LPIおよび8LPIのADJUST用FCB制御文を提供した。

5. 移行上の注意

以前のバージョン・レベルからこのソフトウェアに移るときには、以下の事項に留意しなければならない。

なお、V22L30より前のバージョン・レベルから移行する場合には、新規導入と同じ扱いとなる。

5. 1 V22L30からの移行

V22L30から移行する場合、以下の資産が流用可能である。

- － 実行JCL (一部修正が必要)
 - － コメントキーワードカスタマイズファイル
 - － YPS V11 以降用翻訳オプションファイル
- ロードモジュール、オーバレイは流用できない。

5. 1. 1 実行JCL の修正

実行JCL を流用する場合には、以下の修正を行う。

5. 1. 1. 1 モジュール設計書出力機能 (YPS V11以降用のJCL のみ)

◆参照 → 11.6

(1) DD文の変更

- － 対象DD文：SYSOUT
- 変更前 //SYSOUT DD SYSOUT=*
- 変更後 //SYSOUT DD DUMMY

5. 1. 1. 2 YPS モジュール一覧表出力機能

◆参照 → 11.3

(1) DD文の変更 (レコード長、ブロック長の変更)

- － 対象DD文：JSMYDU02
- 変更前 //JSMYDU02 DD ~ DCB=(LRECL=326, BLKSIZE=31948, ~
- 変更後 //JSMYDU02 DD ~ DCB=(LRECL=328, BLKSIZE=32144, ~

(2) DD文の追加

- － 対象DD文：SYSOUT
- //SYSOUT DD DUMMY

5. 1. 1. 3 YPS ステップカウント出力機能

◆参照 → 11.4

(1) V22L30 では提供していない機能のため今版提供のJCL を使用する。

5. 1. 1. 4 エディタ上部品出力機能

(1) DD文の変更 (レコード長、ブロック長の変更)

- － 対象DD文：JSMYDU01 (YPS V10用及びV11 以降用の両方)
- 変更前 //JSMYDU01 DD ~ DCB=(LRECL=277, BLKSIZE=31855, ~
- 変更後 //JSMYDU01 DD ~ DCB=(LRECL=281, BLKSIZE=30910, ~

◆参照 → 11.7, 11.8

- － 対象DD文：SYSOUT (YPS V11以降用のJCL のみ)

◆参照 → 11.8

変更前 //SYSOUT DD SYSOUT=*

変更後 //SYSOUT DD DUMMY

(2) DD文の追加 (YPS V10用のJCL のみ)

◆参照 → 11.7

- － 対象DD文：SYSOUT

//SYSOUT DD DUMMY

5. 2 V23L10からの移行

V23L10から移行する場合、以下の資産が流用可能である。

- 実行JCL (一部修正が必要)
 - コメントキーワードカスタマイズファイル
 - YPS V11 以降用翻訳オプションファイル
- ロードモジュール, オーバレイは流用できない.

5. 2. 1 実行JCL の修正

実行JCL を流用する場合には, 以下の修正を行う.

5. 2. 1. 1 モジュール設計書出力機能 (YPS V11以降用のJCL のみ)

◆参照 → 11.6

(1) DD文の変更

- 対象DD文: SYSOUT
- 変更前 //SYSOUT DD SYSOUT=*
- 変更後 //SYSOUT DD DUMMY

5. 2. 1. 2 YPS モジュール一覧表出力機能

◆参照 → 11.3

(1) DD文の追加

- 対象DD文: SYSOUT
- //SYSOUT DD DUMMY

5. 2. 1. 3 YPS ステップカウント出力機能

◆参照 → 11.4

(1) DD文の変更 (レコード長, ブロック長の変更)

- 対象DD文: CSVOUT
- 変更前 //CSVOUT DD ~ DCB=(LRECL=224, BLKSIZE=2244, ~
- 変更後 //CSVOUT DD ~ DCB=(LRECL=569, BLKSIZE=4200, ~

(2) DD文の追加

- 対象DD文: SYSOUT
- //SYSOUT DD DUMMY

5. 2. 1. 4 エディタ上部品出力機能

(1) DD文の変更 (YPS V11以降用のJCL のみ)

◆参照 → 11.8

- 対象DD文: SYSOUT
- 変更前 //SYSOUT DD SYSOUT=*
- 変更後 //SYSOUT DD DUMMY

(2) DD文の追加 (YPS V10用のJCL のみ)

◆参照 → 11.7

- 対象DD文: SYSOUT
- //SYSOUT DD DUMMY

5. 3 V23L20からの移行

V23L20から移行する場合, 以下の資産が流用可能である.

- 実行JCL
- コメントキーワードカスタマイズファイル
- YPS V11 以降用翻訳オプションファイル
- オーバレイ

ロードモジュールは流用できない.

5. 4 仕様変更に伴う注意事項

5. 4. 1 V23L10からの移行

- (1) YPS ステップカウント出力機能のSIZEパラメタの省略値を SIZE(4) から SIZE(0)に変更した.
- (2) YPS ステップカウント出力機能において、コピー句IDを正常に出力できない場合、エラーメッセージが出力され、以降のコピー句の情報が出力されていなかった。これをエラーメッセージは出力せず、以降のコピー句の情報を出力可能とした。この結果、出力される組込みコピー句ステップ数が変わる場合がある。

5. 5 MF-PROCOUNT V21L10からの移行

MF-PROCOUNT V21L10から移行する場合、以下の資産が流用可能である。

- － 実行JCL (一部修正が必要)

ロードモジュール、オーバレイは流用できない。

5. 5. 1 実行JCL の修正

5. 5. 1. 1 YPS ステップカウント出力機能

◆参照 → 11.4

- (1) DD文の変更 (レコード長, ブロック長の変更)

- － 対象DD文: JSMYDU01

変更前 //JSMYDU01 DD ~ DCB=(LRECL=7494, BLKSIZE=7494, ~

変更後 //JSMYDU01 DD ~ DCB=(LRECL=3700, BLKSIZE=29600, ~

- － 対象DD文: JSMYDU02

変更前 //JSMYDU02 DD ~ DCB=(LRECL=226, BLKSIZE=2260, ~

変更後 //JSMYDU02 DD ~ DCB=(LRECL=328, BLKSIZE=32144, ~

- (2) DD文の追加

- － 対象DD文: JSMYDI05

外部日本語名標仕様書ライブラリを使用する場合に指定する。

//JSMYDI05 DD DSN=対象データセット, DISP=SHR

- － 対象DD文: JSMYDI06

外部構文定義仕様書ライブラリを使用する場合に指定する。

//JSMYDI06 DD DSN=対象データセット, DISP=SHR

- － 対象DD文: CSVOUT

計測結果を CSVファイルに出力する場合に指定する。

```
//CSVOUT DD DSN=対象データセット, DISP=(NEW, CATLG),  
// SPACE=(TRK, (1, 1)),  
// DCB=(LRECL=569, BLKSIZE=4200, RECFM=VB, DSORG=PS),  
// UNIT=SYSDA
```

5. 5. 1. 2 YPS ステップカウント出力機能以外

- (1) MF-PROCOUNT では提供していない機能のため今版提供のJCL を使用する。

5. 5. 2 計測仕様の違い

MF-PROCOUNT とPF-EXSPEC では、コピー句及びYPS インクルード句に関する入れ子階層構造の計測仕様が異なる。このため計測結果が異なる場合がある。

(1) YPS 仕様書にコピー句及びYPS インクルード句の計測情報を付加する場合

(REPORT制御文にALL またはPGM, CPY, INC の組合せを指定) ◆【1】 2.1.2.1

表5.1 YPS 仕様書の計測を行う場合

MF-PROCOUNT V21L10	PF-EXSPEC V23L10以降
-最初に計測するYPS 仕様書 <ul style="list-style-type: none"> ・コピー句 入れ子のコピー句も計測の対象となる。 ・YPS インクルード句 入れ子のコピー句及びYPS インクルード句も計測の対象となる。 -2番目以降に計測するYPS 仕様書 <ul style="list-style-type: none"> ・コピー句 初めて出現するコピー句は、入れ子のコピー句も計測の対象となる。 既に出現済みのコピー句では、入れ子のコピー句は計測の対象とならない。 ・YPS インクルード句 入れ子のコピー句及びYPS インクルード句は計測の対象とならない。 	-計測する全てのYPS 仕様書 <ul style="list-style-type: none"> ・コピー句 入れ子のコピー句は計測の対象とならない。 ・YPS インクルード句 入れ子のYPS インクルード句は計測の対象とならない。

※MF-PROCOUNT において、計測の対象となる入れ子のコピー句及びYPS インクルード句は、全ての階層（最大7階層）が対象となる。

※YPS 仕様書の計測や、コピー句一覧及びYPS インクルード句一覧として計測されるものは、MF-PROCOUNTとPF-EXSPEC で同じである。

(2) コピー句の計測のみ行う場合 (REPORT制御文にCPY を指定)

◆【1】 2.1.2.1

表5.2 コピー句の計測のみ行う場合

MF-PROCOUNT V21L10	PF-EXSPEC V23L10以降
-計測する全てのコピー句 <ul style="list-style-type: none"> ・各メンバの計測において、初めて出現する入れ子のコピー句は、そのコピー句のみ計測の対象となる。 ・各メンバの計測において、既に出現済みの入れ子のコピー句は計測の対象とならない。 	-計測する全てのコピー句 <ul style="list-style-type: none"> ・各メンバの計測において、入れ子のコピー句は計測の対象とならない。

※MF-PROCOUNT において、計測の対象となる入れ子のコピー句は、1階層目のみ対象となる。

(3) YPS インクルード句の計測のみ行う場合 (REPORT制御文にINC を指定)

◆【1】 2.1.2.1

表5.3 YPS インクルード句の計測のみ行う場合

MF-PROCOUNT V21L10	PF-EXSPEC V23L10以降
-最初に計測するYPS インクルード句 <ul style="list-style-type: none"> ・入れ子のYPS インクルード句も計測の対象となる。 -2番目以降に計測するYPS インクルード句 <ul style="list-style-type: none"> ・入れ子のYPS インクルード句は計測の対象とならない。 	-計測する全てのYPS インクルード句 <ul style="list-style-type: none"> ・各メンバの計測において、入れ子のYPS インクルード句は計測の対象とならない。

※MF-PROCOUNT において、計測の対象となる入れ子のYPS インクルード句は、全ての階層（最大7階層）が対象となる。

6. 制限事項

PF-EXSPEC の制限事項を表6.1 に示す.

表6.1 制限事項 (続く)

項番	制限事項	備考 (代行方法, その他)	解除予定
1	YPS/COBOL のみを対象とし, YPS/C はサポートしない.		なし
2	モジュール本体に, 複数のプログラム単位あるいは二次入口が存在するYPS 仕様書を入力対象とした場合, 出力結果は保証されない.		未定
3	EXSPECで出力されるドキュメントは, EXSPEC用のコメント及び YPS仕様書中に記述されている標準的な日本語名標や構文を解析して情報を取得している. そのため, 一定の規則に沿って YPS 仕様書が記述されていなければならない. 規約を遵守していないYPS 仕様書については, 出力結果は保証されない.	EXSPEC用のコメントとYPS 仕様書の記述については解説書を参照されたい.	未定
4	YPS コンパイラで重度のエラー (Sレベル以上) が発生するYPS 仕様書を入力対象とした場合, 出力結果は保証されない.		未定
5	文字列リテラル内に☆を記述する場合には, 次の制限がある. なお, 文字列リテラルの記述形式としては, 1文内に出現するリテラルは2つで, 同じ文字でなければならない. 全角・半角の混在及び単 (') 複 (") の混在は許されない. ・ PARMパラメタにV11 を指定した場合 ☆は文字列リテラル中の1文字とみなす. ・ PARMパラメタにV10 を指定した場合 ☆を文字列と認識せずコメントとみなす.		未定
6	分割宣言パラメタ (SPLIT) を指定してYPS 仕様書を出力した場合, 1行が長いと途中までしか出力されないことがある.		未定
7	YPS V11 以降モード (YPSVL=V11) でセクション構造図を出力した場合, 節の呼び出し行番号は出力されない.		未定
8	YPS 仕様書・エディタ上部品・コピー句・YPS インクルードのライブラリが連結されていて, 同一メンバが存在する場合は, 先頭のライブラリのメンバがドキュメントの出力対象となる.		なし
9	モジュール設計書出力機能を実行する場合に, YPS のV10/ V11以降モードのいずれかをPARMパラメタ (YPSVL=V10/V11) で指定しなければならない. その際YPS のバージョンレベルに該当するYPS/BASE及びYPS/COBOL のコンパイラをJCL のJOB LIB及びSTEPLIB (PRGLIB) に定義しなければならない.		未定
10	YPS V11 以降用の動作モードでEXSPECを実行する場合は, YPS/COBOL を内部的に使用するためYPS/COBOL が使用するデータセットを定義する必要がある.		未定
11	EXSPECのロードモジュールを認定ライブラリにインストールする, またはインストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない.		なし
12	モジュール概要のブロックダイアグラムをGSL を使用してグラフィックモードで出力する場合は, JOBLIB (STEPLIB) またはPRGLIBにおいて, KINGがインストールされているLINKLIB より前にGSL がインストールされているLINKLIB を指定しなければならない.		なし

表6.1 制限事項（続き）

項 番	制 限 事 項	備考（代行方法，その他）	解除予定
1 3	モジュール概要のブロックダイアグラムをGSLを使用してグラフィックモードで出力する場合は，GSL が使用できるプリンタ装置及びプリンタオプションが必要となる．	PARMパラメタに'NG'を指定することによってGSL がなくてもキャラクタで出力可能である．	なし
1 4	フォームオーバーレイの出力は COBOLの制御レコードを使用している．従って，MSP の場合，JES の初期化文の出力クラス指定で GRAPHパラメタを指定しなくてはならない．		なし
1 5	PARMパラメタの指定はMSP, XSP とも100 文字までしか指定できない．	オーバーレイIDの変更がある場合は，SYSIN制御文による指定を行うことで100文字以内にすることが可能である．	未定
1 6	再帰呼び出しの記述があるYPS 仕様書を入力した場合，動作は保証されない．		なし
1 7	EXSPECで解析できるYPS 仕様書の1行に記述できる最大文字数は，YPS エディタで入力可能な文字数（半角文字で120 桁，全角文字60文字まで）とする．それを超える場合，出力結果は保証されない．特にYPS 仕様書出力において途中でしか出力されないことがある．		未定
1 8	EXSPECで扱うことのできるYPS 仕様書のメンバ名は8文字以内である．		なし
1 9	モジュール設計書出力時，PARM パラメタ(YPSLV=V10/V11) にて，インストールされているYPS/COBOL およびYPS/BASEのバージョンレベルを指定しなくてはならない．		なし
2 0	YPS/COBOL V11 以降がインストールされている環境でYPS V10 互換モードの運用を行っている場合，翻訳オプション指定データセットにてYPS/COBOL の言語仕様(LANGLVL) にV10 を指定しなくてはならない．		なし

7. ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは以下のとおりである。

表7.1 ソフトウェア組合せ条件

ソフトウェア名	適用V/L	必要条件		備考
		必須	オプション	
YPS/BASE	V10L20	○		V10L20またはV11L10以降のいずれかが必ず必要である。V11L10を使用する場合は、PTF L94051以降が必要
YPS/BASE	V11L10以降			
YPS/COBOL	V11L10以降		○	YPS/BASEがV11L10以降の場合に必要なV11L10を使用する場合は、PTF L93121以降が必要 V11L30を使用する場合は、PTF L96111以降が必要
COBOL85	V12L10以降	○		
ADJUST	V10L50以降	○		V10L50の場合は、PTF L89061以降が必要
JEF 基本辞書	V01L92以降	○		
GSL	V10L30以降		○	グラフィックモードでモジュール概要を出力する場合
GEM	V10L30以降		○	対象ライブラリが GEMの場合
ソートマージ	V10L30以降	○		
APS ライタ	V11L10以降		○	VSP シリーズプリンタに出力する場合 ◆参照 → 8

8. 入出力装置

本ソフトウェアの各ドキュメントの出力が可能なプリンタ装置について説明する。

本ソフトウェアの帳票は、日本語ラインプリンタ、カット紙ラインプリンタおよびVSP シリーズプリンタで出力することができる。ただしフォームオーバーレイが出力でき、1行当たりのデータ長が255 バイト以上の帳票が出力できるプリンタであること。

また、モジュール概要のブロックダイアグラムをグラフィックモードで出力する場合は、GSL が使用できるプリンタ及びプリンタオプションが必要である。

[補足事項]

－ VSP シリーズプリンタでの出力

以下の環境でVSP シリーズプリンタへの出力確認を行った。(グラフィックモードでの出力可能)

使用機種 : VSP4700
導入オプション : GS/M連携機構, 拡張出力機構
ライタ環境定義

```
DFNWTR ライタ名 UNIT(VTAM端末名 F6671 HDLC) JOB(H * *) OVERLAY GRAPH  
IMAGE OUTPUT(1 1 0) SEPARATOR(TOP) SIDE(BOTH)
```

9. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表9.1 から表9.2 に示すとおりである。

表9.1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻数
SL	A 6 8 2 F 4	7	1

表9.2 提供媒体内容

格納 順番	データセット名	内 容
1	EXSPEC. JCL	提供JCLファイル（インストール用ジョブ制御文，雛形ジョブ制御文） 以下のメンバが格納されている ①INSTALL：インストール用ジョブ制御文（磁気テープ媒体の場合） ②INSTALL2：インストール用ジョブ制御文（DVD 媒体の場合） ③ICHIRAN：YPSモジュール一覧表出力機能 ④PROV11：モジュール設計書出力機能 （YPS/COBOL, YPS/BASEがV11 以降の場合） ⑤PROV10：モジュール設計書出力機能（YPS/BASEがV10 の場合） ⑥EDTV11：エディタ上部品出力機能 （YPS/COBOL, YPS/BASEがV11 以降の場合） ⑦EDTV10：エディタ上部品出力機能（YPS/BASEがV10 の場合） ⑧YSTEPC：YPSステップカウント出力機能
2	EXSPEC. LOAD	ロードモジュール
3	EXSPEC. IMG	オーバーレイイメージライブラリ 以下のメンバが格納されている ①KOL1Q001：モジュール設計書（表紙） ②KOL1Q002：変更履歴一覧表 ③KOL1Q003：モジュール概要 ④KOL1Q006：呼出条件一覧 ⑤KOL1Q008：YPSモジュール一覧表 ⑥KOL1Q009：YPSステップカウントリスト（8LP1） ⑦KOL1Q010：エディタ上部品一覧表 ⑧KOL1Q011：エディタ上部品リスト ⑨KOL1Q012：YPSステップカウントリスト（6LP1） ⑩KOL1Q016：モジュール機能詳細リスト ⑪KOL1Q017：セクション機能概要リスト ⑫KOL1Q020：セクション構造図 ⑬KOL1Q021：YPS仕様書（変更履歴部あり） ⑭KOL1Q022：YPS仕様書（変更履歴部なし） ⑮KOL1Q023：モジュール概要（補助シート1） ⑯KOL1Q024：モジュール概要（補助シート2） ⑰KOL1Q025：サブルーチン情報リスト ⑱KOL1Q026：データ項目定義リスト
4	EXSPEC. OVL	オーバーレイ定義体 以下のメンバが格納されている ①Q001：モジュール設計書（表紙） ②Q002：変更履歴一覧表 ③Q003：モジュール概要 ④Q006：呼出条件一覧 ⑤Q008：YPSモジュール一覧表 ⑥Q009：YPSステップカウントリスト（8LP1） ⑦Q010：エディタ上部品一覧表 ⑧Q011：エディタ上部品リスト ⑨Q012：YPSステップカウントリスト（6LP1） ⑩Q016：モジュール機能詳細リスト ⑪Q017：セクション機能概要リスト ⑫Q020：セクション構造図 ⑬Q021：YPS仕様書（変更履歴部あり） ⑭Q022：YPS仕様書（変更履歴部なし） ⑮Q023：モジュール概要（補助シート1） ⑯Q024：モジュール概要（補助シート2） ⑰Q025：サブルーチン情報リスト ⑱Q026：データ項目定義リスト ⑲EXP1：ADJUST用FCB制御文（6LP1） ⑳EXP2：ADJUST用FCB制御文（8LP1）
5	EXSPEC. TESTYPS	動作確認用 YPS仕様書，雛形 YPS仕様書 以下のメンバが格納されている ①BHN01～BHN04：エディタ上部品（4本） ②SP000～SP050：YPS 仕様書（6本） ③KOUBUN：利用者定義構文 ④MEIHYO：日本語名標 ⑤CPY001～CPY011：コピー句（11本） ⑥INC001～INC004：YPS インクルード句（4本）
6	EXSPEC. CMT CST	雛形コメントキーワードカスタマイズファイル
7	EXSPEC. YOPT	YPS V11 以降用翻訳オプションファイル （YPS/COBOL, YPS/BASEがV11 以降の場合）

10. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積は表10.1に示す通りである。

表10.1 DASD所要量

単位は各々次の通り
 レコード長, ブロック長: バイト
 ディレクトリ: ブロック
 DASD所要量: トラック

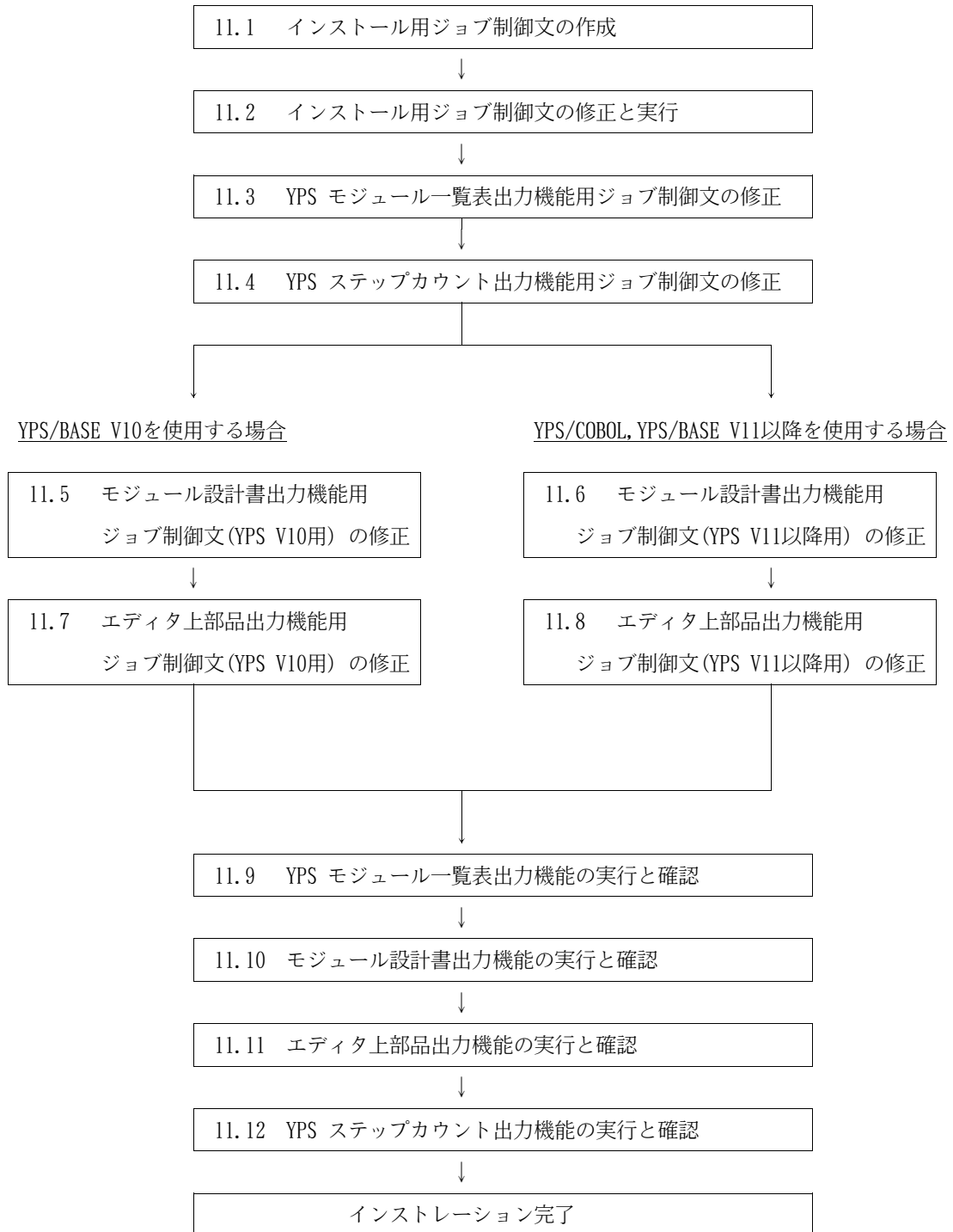
項 番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	算 出 式			備 考
	標準名	変更 可否		ディレ クトリ	DASD所要量		
					F6421	F6425	
1	EXSPEC .JCL	可	区分編成 FB 80 3120	2	3	2	
2	EXSPEC .LOAD	可	区分編成 U - 6144	12	90	60	
3	EXSPEC .IMG	可	区分編成 U - 6144	4	45	30	
4	EXSPEC .OVL	可	区分編成 FB 80 3120	2	6	4	
5	EXSPEC .TESTYPS	可	区分編成 VB 227 2274	2	8	5	
6	EXSPEC .CMT CST	可	順編成 FB 80 800	—	2	1	
7	EXSPEC .YOPT	可	順編成 FB 80 3120	—	2	1	YPS/COBOL V11 以降を 使用する場合にインス トールする。

11. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

インストールの手順は以下のフロー通り実施する。数字は、以降に示す章・節を示す。

なお、使用するYPS/COBOL, YPS/BASEのバージョンレベルにより、11.5～11.8までの手順が異なるため注意が必要である。



11.1 インストール用ジョブ制御文の作成

インストール用ジョブ制御文は、提供JCLファイルのメンバとして提供している。

11.1.1 磁気テープ媒体からのローディング

磁気テープ媒体の提供JCLをローディングするジョブ制御文の例を図11.1に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
//?JOB-NO      JOB CLASS=?,MSGCLASS=?,PASSWORD=?PSW
//STEP01      EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01        DD UNIT=TAPE,DSN=EXSPEC.JCL,LABEL=(1,SL),
//            VOL=SER=A682F4,DISP=OLD
//OT01        DD DSN=EXSPEC.JCL,DISP=(NEW,CATLG),
//            UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(2,1,2)),VOL=SER=VOL01
//SYSPRINT    DD SYSOUT=*
//SYSIN       DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//
```

図11.1 磁気テープ媒体からローディングするジョブ制御文（例）

11.1.2 DVD媒体からのローディング

DVD媒体の提供JCLをローディングするジョブ制御文の例を図11.2に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
//?JOB-NO      JOB CLASS=?,MSGCLASS=?,PASSWORD=?PSW
//STEP01      EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01        DD UNIT=SYSDA,DSN=EXSPEC.JCL,VOL=SER=DVDVOL,
//            DISP=OLD
//OT01        DD DSN=EXSPEC.JCL,DISP=(NEW,CATLG),
//            UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(2,1,2)),VOL=SER=VOL01
//SYSPRINT    DD SYSOUT=*
//SYSIN       DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//
```

図11.2 DVD媒体からローディングするジョブ制御文（例）

[注意事項]

DVD媒体の内容はDASDに転送されていることが前提である。DVD媒体からDASDへの転送については、DVD適用手順書を参照されたい。

11.2 インストール用ジョブ制御文の修正と実行

インストールするシステムに応じ、インストール用ジョブ制御文を修正し、実行する。

11.2.1 磁気テープ媒体からのインストール

磁気テープ媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図11.3に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL'である。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
//?JOB-NO JOB CLASS=?,MSGCLASS=?,PASSWORD=?PSW
//*** LOAD MODULE ***
//STEP01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01 DD UNIT=TAPE,DSN=EXSPEC.LOAD,LABEL=(2,SL),
// VOL=SER=A682F4,DISP=(,PASS)
//OT01 DD DSN=EXSPEC.LOAD,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(60,1,12),RLSE),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//*** IMAGELIB ***
//STEP02 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01 DD UNIT=TAPE,DSN=EXSPEC.IMG,LABEL=(3,SL),
// VOL=SER=A682F4,DISP=(,PASS)
//OT01 DD DSN=EXSPEC.IMG,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,1,4),RLSE),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//*** IMAGELIB SOURCE ***
//STEP03 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01 DD UNIT=TAPE,DSN=EXSPEC.OVL,LABEL=(4,SL),
// VOL=SER=A682F4,DISP=(,PASS)
//OT01 DD DSN=EXSPEC.OVL,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(4,1,2),RLSE),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//*** YPS SOURCE (TEST) ***
//STEP04 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01 DD UNIT=TAPE,DSN=EXSPEC.TESTYPS,LABEL=(5,SL),
// VOL=SER=A682F4,DISP=(,PASS)
//OT01 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,1,2),RLSE),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//*** COMMENT KEYWORD CUSTOMIZE FILE ***
//STEP05 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSUT1 DD UNIT=TAPE,DSN=EXSPEC.CMTCST,LABEL=(6,SL),
// VOL=SER=A682F4,DISP=(,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=EXSPEC.CMTCST,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1)),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//*** YPS V11 OPTION ***
//STEP06 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSUT1 DD UNIT=TAPE,DSN=EXSPEC.YOPT,LABEL=(7,SL),
// VOL=SER=A682F4,DISP=(,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=EXSPEC.YOPT,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1)),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//
```

YPS/COBOL V11
以降を使用する
場合のみ実行す
る

図11.3 磁気テープ媒体からのインストール用ジョブ制御文

[注意事項]

- 6ステップ目の YPS V11以降用翻訳オプションファイルのインストールは、YPS/COBOL、YPS/BASE V11以降を使用する場合にのみ実行する必要がある。
- ロードモジュールのインストール先は認定ライブラリであってはならない。 ◆参照 → 6

11.2.2 DVD媒体からのインストール

DVD媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図11.4に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL2'である。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```

//?JOB-NO JOB CLASS=?,MSGCLASS=?,PASSWORD=?PSW
//*** LOAD MODULE ***
//STEP01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01 DD DSN=EXSPEC.LOAD,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OT01 DD DSN=EXSPEC.LOAD,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(60,1,12),RLSE),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//*** IMAGELIB ***
//STEP02 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01 DD DSN=EXSPEC.IMG,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OT01 DD DSN=EXSPEC.IMG,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,1,4),RLSE),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//*** IMAGELIB SOURCE ***
//STEP03 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01 DD DSN=EXSPEC.OVL,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OT01 DD DSN=EXSPEC.OVL,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(4,1,2),RLSE),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//*** YPS SOURCE (TEST) ***
//STEP04 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN01 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OT01 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,1,2),RLSE),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OT01
//*** COMMENT KEYWORD CUSTOMIZE FILE ***
//STEP05 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSUT1 DD DSN=EXSPEC.CMTCST,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=EXSPEC.CMTCST,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1)),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//*** YPS V11 OPTION ***
//STEP06 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSUT1 DD DSN=EXSPEC.YOPT,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=EXSPEC.YOPT,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1)),VOL=SER=VOLUME1
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//

```

YPS/COBOL V11
以降を使用する
場合のみ実行す
る

図11.4 DVD媒体からのインストール用ジョブ制御文

[注意事項]

- 6ステップ目の YPS V11以降用翻訳オプションファイルのインストールは、YPS/COBOL、YPS/BASE V11以降を使用する場合にのみ実行する必要がある。
- ロードモジュールのインストール先は認定ライブラリであってはならない。 ◆参照 → 6

11.4 YPS ステップカウント出力機能用ジョブ制御文の修正

YPS ステップカウント出力機能用ジョブ制御文は、提供JCLファイルのメンバ'YSTEP' (図11.6) を修正して作成する。下線部は修正箇所である。

- ① PF-EXSPEC のイメージライブラリ
- ② PF-EXSPEC のロードモジュールライブラリ
- ③ COBOL85 ライブラリなどの必要モジュールのライブラリを指定する。

ただし、認定ライブラリとなっているものは指定する必要がない。

注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

- ④ 動作確認用YPS 仕様書ライブラリ
- ⑤ ステップ情報CSV形式ファイルの出力先を指定する。
- ⑥ PARMパラメタ"LC"の指定に応じた値をそれぞれ指定する。

◆【1】 2.1.1.3

```

//?JOB-ID JOB CLASS=?,MSGCLASS=?,PASSWORD=?PSW
//IMAGELIB DD DSN=EXSPEC.IMG,DISP=SHR
//TESTGO EXEC PGM=JSMY0720,REGION=3072K,PARM='CSV'
//STEPLIB DD DSN=EXSPEC.LOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JSMYD101 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=SHR
//JSMYD102 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=SHR
//JSMYD103 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=SHR
//JSMYD105 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=SHR
//JSMYD106 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=SHR
//CSVOUT DD DSN=EXSPEC.CSVOUT,DISP=(NEW,CATLG),
// SPACE=(TRK,(1,1)),
// DCB=(LRECL=569,BLKSIZE=4200,RECFM=VB,DSORG=PS),
// UNIT=SYSDA
//JSMYDU01 DD DSN=&&CMT,DISP=(NEW,PASS,DELETE),
// SPACE=(CYL,(10,5,50)),
// DCB=(LRECL=3700,BLKSIZE=29600,RECFM=FB,DSORG=PO),
// UNIT=SYSDA
//JSMYDU02 DD DSN=&&SOC,DISP=(NEW,PASS,DELETE),
// SPACE=(CYL,(10,5),RLSE),
// DCB=(LRECL=328,BLKSIZE=32144,RECFM=FB,DSORG=PS),
// UNIT=SYSDA
//JSMYDU04 DD DUMMY
//JSMYLO01 DD SYSOUT=*,FCB=STD3,FLASH=Q009
//JSMYLO02 DD SYSOUT=*

```

図11.6 YPSステップカウント出力機能用ジョブ制御文(続く)

```
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (300, 100), RLSE),  
// DSN=##SORTWK01, DISP=(NEW, PASS, DELETE)  
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (300, 100), RLSE),  
// DSN=##SORTWK02, DISP=(NEW, PASS, DELETE)  
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (300, 100), RLSE),  
// DSN=##SORTWK03, DISP=(NEW, PASS, DELETE)  
//JSMYWK01 DD SPACE=(TRK, (50, 50)), UNIT=SYSDA  
//JSMYWK02 DD SPACE=(TRK, (50, 50)), UNIT=SYSDA  
//JSMYWK03 DD SPACE=(TRK, (50, 50)), UNIT=SYSDA  
//JSMYWK04 DD SPACE=(TRK, (50, 50)), UNIT=SYSDA  
//SYSPRINT DD DUMMY  
//SYSOUT DD DUMMY  
//SYSIN DD *  
- R PGM  
- G MEM=SP*  
/*  
//
```

図11.6 YPSステップカウンタ出力機能用ジョブ制御文(続き)

11.5 モジュール設計書出力機能用ジョブ制御文 (YPS V10用) の修正

モジュール設計書出力機能用ジョブ制御文は、提供JCLファイルのメンバ'PROV10' (図11.7) を修正して作成する。下線部は修正箇所である。

- ① PF-EXSPEC のイメージライブラリ
- ② モジュール概要のブロックダイアグラムをキャラクタで出力する場合は、NG を指定する。GSL を使用して出力する場合は、NG を削除する。
- ③ 使用するYPS/BASEのバージョンレベル (V10) を指定する。
- ④ PF-EXSPEC のロードモジュールライブラリ
- ⑤ COBOL85 ライブラリなどの必要モジュールのライブラリを指定する。

ただし、認定ライブラリとなっているものは指定する必要がない。

注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

- ⑥ 文字パターンマスタファイル及び、文字パターン属性ファイルを指定する。
- ⑦ 動作確認用YPS 仕様書ライブラリ
- ⑧ YPS ドキュメント出力用の追加文字セットを指定する。
- ⑨ 拡張非漢字の出力指定を行う。

```

//?JOB-ID JOB CLASS=?,MSGCLASS=?,PASSWORD=?PSW
//IMAGELTB DD DSN=EXSPEC.IMG,DISP=SHR
//EXSPEC EXEC PGM=JSMY0700,REGION=3072K,
// PARM=(NG,YPSVL=V10)
//STEPLIB DD DSN=EXSPEC.LOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.TGSLTB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.YPSL20.LINKLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//MPTMST DD DSN=SYS1.KPATNLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.KATTRLIB,DISP=SHR
//JSMYD101 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=SHR
//JSMYD102 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=SHR
//JSMYD103 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=SHR
//JSMYD104 DD DUMMY
//JSMYDU01 DD DSN=CCMT,DISP=(NEW,PASS,DELETE),
// SPACE=(TRK,(100,500,50),RLSE),
// DCB=(LRECL=3700,BLKSIZE=29600,RECFM=FB,DSORG=PO),
// UNIT=SYSDA
//JSMYDU03 DD DSN=CCSEC,DISP=(NEW,PASS,DELETE),
// SPACE=(TRK,(100,500,50)),
// DCB=(LRECL=1401,BLKSIZE=30822,RECFM=FB,DSORG=PO),
// UNIT=SYSDA
//JSMYDU04 DD DUMMY
//JSMYDU05 DD DSN=CCYPS,DISP=(NEW,PASS,DELETE),
// SPACE=(TRK,(100,500,50)),
// DCB=(LRECL=227,BLKSIZE=31780,RECFM=FB,DSORG=PO),
// UNIT=SYSDA
//JSMYL001 DD SYSOUT=*,CHARS=?CHAR,DCB=OPTCD=U

```

図11.7 モジュール設計書出力機能用ジョブ制御文 (YPS V10用) (続く)

```
//FT30F001 DD  SYSOUT=*
//JSMYLO02 DD  SYSOUT=*
//JSMYWK01 DD  SPACE=(TRK,(100,50)),UNIT=SYSDA
//JSMYWK02 DD  SPACE=(TRK,(100,50)),UNIT=SYSDA
//JSMYWK03 DD  SPACE=(TRK,(100,50)),UNIT=SYSDA
//JSMYWK04 DD  SPACE=(TRK,(100,50)),UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD  DUMMY
//SYSOUT DD  DUMMY
//SYSIN DD  *
- REPORT ALL
- GROUP MEM=SP020
/*
//
```

図11.7 モジュール設計書出力機能用ジョブ制御文(YPS V10用) (続き)

11.6 モジュール設計書出力機能用ジョブ制御文 (YPS V11以降用) の修正

モジュール設計書出力機能用ジョブ制御文は、提供JCLファイルのメンバ'PROV11' (図11.8) を修正して作成する。下線部は修正箇所である。

- ① PF-EXSPEC のイメージライブラリ
- ② モジュール概要のブロックダイアグラムをキャラクタで出力する場合は、NG を指定する。GSL を使用して出力する場合は、NG を削除する。
- ③ 使用するYPS/COBOL, YPS/BASEのバージョンレベル (V11) を指定する。
- ④ PF-EXSPEC のロードモジュールライブラリ
- ⑤ COBOL85 ライブラリ, YPS/COBOL コンパイラなどの必要モジュールのライブラリを指定する。
ただし、認定ライブラリとなっているものは指定する必要がない。

注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

- ⑥ 動作確認用YPS 仕様書ライブラリ
- ⑦ 文字パターンマスタファイル及び、文字パターン属性ファイルを指定する。
- ⑧ YPS ドキュメント出力用の追加文字セットを指定する。
- ⑨ 拡張非漢字の出力指定を行う。
- ⑩ YPS V11 以降用翻訳オプションファイルを指定する。

```

//?JOB-NO JOB CLASS=?,MSGCLASS=?,PASSWORD=?
//IMAGELTB DD DSN=EXSPEC.IMG,DISP=SHR
//*
//EXSPEC EXEC PGM=JSMY0700,REGION=4096K,
// PARM=(NG,YPSVL=V11')
//STEPLIB DD DSN=EXSPEC.LOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.YPS.LINKLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLTB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.TGSLTB,DISP=SHR
// DD DSN=SYST.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//SYSIN DD *
- REPORT ALL
- GROUP MEM=SP020
//*
//JSMYD101 DD DSN=EXSPEC.TESTTYP,DISP=SHR
//JSMYD102 DD DSN=EXSPEC.TESTTYP,DISP=SHR
//JSMYD103 DD DSN=EXSPEC.TESTTYP,DISP=SHR
//JSMYD104 DD DUMMY
//MPTMST DD DSN=SYS1.KPATNLB,DISP=SHR
// DD DSN=SYST.KATTRLB,DISP=SHR
//JSMYDU01 DD DSN=&&CMT,DISP=(NEW,PASS,DELETE),
// SPACE=(TRK,(1000,500,500)),
// DCB=(LRECL=3700,BLKSIZE=29600,RECFM=FB,DSORG=PO),
// UNIT=SYSDA
//JSMYDU03 DD DSN=&&SEC,DISP=(NEW,PASS,DELETE),
// SPACE=(TRK,(500,200,200)),
// DCB=(LRECL=1401,BLKSIZE=30822,RECFM=FB,DSORG=PO),
// UNIT=SYSDA
//JSMYDU04 DD DUMMY

```

図11.8 モジュール設計書出力機能用ジョブ制御文 (YPS V11以降用) (続く)

```

//JSMYDU05 DD DSN=&&YPS, DISP=(NEW, PASS, DELETE),
//          SPACE=(TRK, (50, 20, 20)),
//          DCB=(LRECL=227, BLKSIZE=31780, RECFM=FB, DSORG=PO),
//          UNIT=SYSDA
//JSMYLO01 DD SYSOUT=*, CHARS=?CHAR, DCB=OPTCD=U
//          ⑧          ⑨

//FT30F001 DD SYSOUT=*
//JSMYLO02 DD SYSOUT=*
//JSMYWK01 DD SPACE=(TRK, (100, 50)), UNIT=SYSDA
//JSMYWK02 DD SPACE=(TRK, (100, 50)), UNIT=SYSDA
//JSMYWK03 DD SPACE=(TRK, (100, 50)), UNIT=SYSDA
//JSMYWK04 DD SPACE=(TRK, (100, 50)), UNIT=SYSDA
//SYSYIN DD DSN=EXSPEC. TESTYPS, DISP=SHR
//          ⑥

//*
//SYSYOPT DD DSN=EXSPEC. YOPT, DISP=SHR
//          ⑩
//SYSYLIB DD DSN=EXSPEC. TESTYPS (KOBUN), DISP=SHR
//          ⑥
//SYSYJLIB DD DSN=EXSPEC. TESTYPS (MEIHYO), DISP=SHR
//          ⑥
//SYSYINC DD DSN=EXSPEC. TESTYPS, DISP=SHR
//          ⑥
//SYSYINF DD DSN=&&YINF, DISP=(NEW, PASS, DELETE),
//          UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (50, 50, 50))
//SYSYUT1 DD DSN=&&YUT1, DISP=(NEW, PASS, DELETE),
//          UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (50, 50, 50))
//SYSYMSG DD DSN=&&YMSG, DISP=(NEW, PASS, DELETE),
//          UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (50, 50, 50))
//SYSYMID DD DSN=&&YMID, DISP=(NEW, PASS, DELETE),
//          UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (50, 50, 50))
//SYSYPRT DD SYSOUT=*, DCB=(RECFM=VBA, LRECL=512, BLKSIZE=5124)
//SYSTEM DD SYSOUT=*, DCB=(RECFM=VB, LRECL=512, BLKSIZE=5124)
//SYSOUT DD DUMMY
//*
//

```

図11.8 モジュール設計書出力機能用ジョブ制御文(YPS V11以降用) (続き)

11.8 エディタ上部品出力機能用ジョブ制御文 (YPS V11以降用) の修正

エディタ上部品出力機能用ジョブ制御文は、提供JCLファイルのメンバ'EDTV11' (図11.10) を修正して作成する。下線部は修正箇所である。

- ① PF-EXSPEC のイメージライブラリ
- ② 使用するYPS/COBOL, YPS/BASEのバージョンレベル (V11) を指定する。
- ③ PF-EXSPEC のロードモジュールライブラリ
- ④ COBOL85 ライブラリ, YPS/COBOL コンパイラなどの必要モジュールのライブラリを指定する。

ただし、認定ライブラリとなっているものは指定する必要がない。

注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

- ⑤ 動作確認用YPS 仕様書ライブラリ
- ⑥ YPS ドキュメント出力用の追加文字セットを指定する。
- ⑦ YPS V11 以降用翻訳オプションファイルを指定する。

```

//?JOB-NO JOB CLASS=?,MSGCLASS=?,PASSWORD=?
//IMAGELIB DD DSN=EXSPEC.IMG,DISP=SHR
//          ①
//*
//TESTGO EXEC PGM=JSMY0730,REGION=4096K,
//        PARM=('YPSVL=V11')
//          ②
//STEPLIB DD DSN=EXSPEC.LOAD,DISP=SHR
//          ③
//        DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR
//        DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR
//        DD DSN=SYS1.YPS.LINKLIB,DISP=SHR
//        DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//          ④
//SYSIN DD *
- R ALL
- G BHN=BHN*
//*
//JSMYD101 DD DSN=EXSPEC.TESTYPS,DISP=SHR
//          ⑤
//JSMYDU01 DD DSN=&&BHN,DISP=(NEW,PASS,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(10,5,5)),
//          DCB=(LRECL=281,BLKSIZE=30910,RECFM=FB,DSORG=PO),
//          UNIT=SYSDA
//JSMYD104 DD DUMMY
//JSMYLO01 DD SYSOUT=*,CHARS=?CHAR
//JSMYLO02 DD SYSOUT=*
//          ⑥
//JSMYWK01 DD SPACE=(TRK,(50,50)),UNIT=SYSDA
//JSMYWK02 DD SPACE=(TRK,(50,50)),UNIT=SYSDA
//SYSYOPT DD DSN=EXSPEC.YOPT,DISP=SHR
//          ⑦

```

図11.10 エディタ上部品出力機能用ジョブ制御文 (YPS V11以降用) (続く)

```

//SYSYLIB DD DSN=EXSPEC. TESTYPS (KOBUN), DISP=SHR
//SYSYJLIB DD DSN=EXSPEC. TESTYPS (MEIHYO), DISP=SHR
//SYSYINC DD DSN=EXSPEC. TESTYPS, DISP=SHR
//SYSYIN DD DSN=EXSPEC. TESTYPS, DISP=SHR
//SYSYINF DD DSN=&&YINF, DISP=(NEW, PASS, DELETE),
// UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10, 10))
//SYSYUT1 DD DSN=&&YUT1, DISP=(NEW, PASS, DELETE),
// UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10, 10))
//SYSYMSG DD DSN=&&YMSG, DISP=(NEW, PASS, DELETE),
// UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10, 10))
//SYSYMID DD DSN=&&YMID, DISP=(NEW, PASS, DELETE),
// UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10, 10))
//SYSYPRT DD SYSOUT=*, DCB=(RECFM=VBA, LRECL=512, BLKSIZE=5124)
//SYSTEM DD SYSOUT=*, DCB=(RECFM=VB, LRECL=512, BLKSIZE=5124)
//SYSOUT DD DUMMY
//*
//

```

図11.10 エディタ上部品出力機能用ジョブ制御文(YPS V11以降用) (続き)

11.9 YPS モジュール一覧表出力機能の実行と確認

11.3で作成したYPS モジュール一覧表出力機能用ジョブ制御文を実行する。以下の通りに実行し、正常に処理されればYPS モジュール一覧表出力機能のインストールは完了である。

a) 実行手順

動作確認用YPS 仕様書ライブラリの中にテスト用のYPS 仕様書が入っている。(メンバ名: SP000 ~ SP050)

そのYPS 仕様書を入力として実行する。以下にその手順を示す。

- ① ジョブ制御文を修正する。
 - (1) SYSIN 制御文は、インストールしたものをそのまま使用する。修正してしまった場合は、
図11.5の通りに修正する。
 - (2) JSMYD101 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。
- ② 実行する。

b) 確認方法

以下の項目を確認する。

- ① リターンコードが0で終了する。
- ② JSMYL001 DD文で指定した出力先に、YPS モジュール一覧表が出力される。出力内容の確認は適用マニュアルを参照されたい。ただし、適用マニュアルでは出力されている最終修正日は出力されない。

◆【1】 付録A

11.10 モジュール設計書出力機能の実行と確認

11.5または11.6で作成したモジュール設計書出力機能用ジョブ制御文を実行する。以下の通りに実行し、正常に処理されればモジュール設計書出力機能のインストールは完了である。

a) 実行手順

動作確認用YPS 仕様書ライブラリの中にテスト用のYPS 仕様書が入っている。(メンバ名: SP020)
そのYPS 仕様書を入力として実行する。以下にその手順を示す。

- ① ジョブ制御文を修正する。
 - (1) SYSIN 制御文は、インストールしたものをそのまま使用する。修正してしまった場合は、
図11.7または図11.8の通りに修正する。
 - (2) JSMYD101 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。
 - (3) JSMYD102 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。
 - (4) JSMYD103 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。
- ② 実行する。

b) 確認方法

以下の項目を確認する。

- ① リターンコードが0で終了する。
- ② JSMYL001, FT30F001 DD文で指定した出力先に、モジュール設計書が出力される。出力内容の確認は適用マニュアルを参照されたい。ただし、セクション構造図、呼出条件一覧の出力内容は、適用マニュアルとは多少異なる。

◆【1】 付録A

11.11 エディタ上部品出力機能の実行と確認

11.7または11.8で作成したエディタ上部品出力機能用ジョブ制御文を実行する。以下の通りに実行し、正常に処理されればエディタ上部品出力機能のインストールは完了である。

a) 実行手順

動作確認用YPS 仕様書ライブラリの中にテスト用のエディタ上部品が入っている。

(メンバ名：BHN01 ～BHN04)

そのエディタ上部品を入力として実行する。以下にその手順を示す。

- ① ジョブ制御文を修正する。
 - (1) SYSIN 制御文は、インストールしたものをそのまま使用する。修正してしまった場合は、
図11.9または図11.10の通りに修正する。
 - (2) JSMYD101 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。
- ② 実行する。

b) 確認方法

以下の項目を確認する。

- ① リターンコードが0で終了する。
- ② JSMYLO01 DD文で指定した出力先に、エディタ上部品が出力される。出力内容の確認は適用マニュアルを参照されたい。

◆【1】 付録A

11.1.12 YPS ステップカウント出力機能の実行と確認

11.4で作成したYPS ステップカウント出力機能用ジョブ制御文を実行する。以下の通りに実行し、正常に処理されればYPS ステップカウント出力機能のインストールは完了である。

a) 実行手順

動作確認用YPS 仕様書ライブラリの中にテスト用のYPS 仕様書が入っている。

(メンバ名：SP000 ～SP050)

そのYPS 仕様書を入力として実行する。以下にその手順を示す。

① ジョブ制御文を修正する。

(1) SYSIN 制御文は、インストールしたものをそのまま使用する。修正してしまった場合は、
図11.6の通りに修正する。

(2) JSMYD101 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。

(3) JSMYD102 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。

(4) JSMYD103 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。

(5) JSMYD105 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。

(6) JSMYD106 DD文に動作確認用YPS 仕様書ライブラリのデータセット名を指定する。

(7) CSVOUT DD文にステップ情報CSV形式ファイルの出力先データセット名を指定する。

② 実行する。

b) 確認方法

以下の項目を確認する。

① リターンコードが0で終了する。

② JSMYLO01 DD文で指定した出力先に、YPS ステップカウントリストが出力される。出力内容の確認は適用マニュアルを参照されたい。

◆【1】 付録A

③ CSVOUT DD文で指定した出力先に、YPS ステップ情報CSV 形式ファイルが出力される。出力内容の確認は図11.11を参照されたい。

```
"***** SIMPLIA/PF-EXSPEC ***** 2016/05/26 12:52:28"  
#1,"Y P S ソース"  
, "システム I D", " サブシステム I D", " ジョブ I D", ".....部注積ステップ数", " 組込みステップ数"  
, " ", " ", " ", " 帳票管理ファイル作成", "SP000", 60, 92, 123, 138, 38  
, " ", " ", " ", " 売上明細表作成", "SP010", 60, 79, 138, 206, 44  
, " ", " ", " ", " 在庫一覧表出力", "SP020", 57, 67, 123, 98, 79  
, " ", " ", " ", " 入庫受付リスト", "SP030", 110, 141, 191, 262, 33  
, " ", " ", " ", " 作業区分別件数表作成", "SP040", 89, 120, 176, 241, 13  
, " ", " ", " ", " 作業マスター更新", "SP050", 52, 73, 69, 113, 58
```

図11.11 YPSステップ情報CSV 形式ファイルの内容

12. 適用マニュアルの正誤表

マニュアル名称	マニュアルコード
OSIV SIMPLIA/PF-EXSPEC 解説書 V23用	J1M0-9880-02

表12.1 適用マニュアルの正誤表 (続く)

項番	ページ	行・位置	旧記述 (誤)	新記述 (正)
1	85	1.5.12 RDB II 情報定義	ー RDB II 情報定義は、データ部内に記述する。(節は問わない)	ー RDB II 情報定義は、データ部内に記述する。 (作業用データ宣言節および仮引数宣言節に記述する)
2	129	表1.85 COPY 命令の記述形式 [規則の説明]	ー 【書き方-1】は、1行に記述しなければならない。 ー 【書き方-2】は、複数行に記述してもよい。	ー 【書き方-1】【書き方-2】は、複数行で記述してもよい。但し、一つのキーワードは、1行で記述しなければならない。なお、モジュール設計書出力機能では、8行以内に全てのキーワードが記述されていない場合、COPY命令と見なさない。
3	129	表1.86 COPY 命令の指定項目 (YPS記述)	「コピー句名-1」の「桁数及び記述方法」を訂正。 ◆参照 → 12.1	
4	130	図1.87 COPY 命令の記述例	└顧客情報テーブル を取込む	└顧客情報テーブル を取り込む
5	130	表1.87 COPY 命令の記述形式	【書き方-1】【書き方-2】を訂正。 ◆参照 → 12.2	
6	130	表1.87 COPY 命令の記述形式 [規則の説明]	ー 【書き方-1】【書き方-2】ともに、1行に記述しなければならない。	ー 【書き方-1】は、複数行に記述してもよい。但し、一つのキーワードは、1行に記述しなければならない。なお、モジュール設計書出力機能では、8行以内に全てのキーワードが記述されていない場合、COPY命令と見なさない。 ー 【書き方-2】は、1行で記述しなければならない。
7	131	表1.88 COPY 命令の指定項目 (COBOL記述) 「コピー句名-1」の桁数及び記述方法	コピー句名を、そのまま記述する場合 8文字以内の全角か半角の英数字で記述する。	コピー句名を、そのまま記述する場合 8文字以内の全角か半角の英数字とし、1行で記述する。
8	131	1.6.10 COPY 命令 ●注意事項	ー YPS及びCOBOL 記述ともに、行を継続して定義した場合はCOPY命令だと認識されず出力結果が保障されない。 (記述追加)	(記述削除) ー COBOL 記述で標識領域に'-'を指定し行を継続する場合、コピー句名が正しく求められない。 ー COPY命令がOF修飾されている場合、OF修飾の記述は無視される。コピーライブラリとして指定されているデータセット中で、最初に見つかったCOPY命令に指定されているコピー句が解析対象となる。 ー 目的言語記述にて、COBOL のCOPY命令を1行内に複数記述しているとき、当該行内では、最初のピリオドが出現するまで(最初に記述されているCOPY命令のみ)を有効な記述とし、それよりも後ろに記述されている内容は無視される。

表 1 2 . 1 適用マニュアルの正誤表 (続く)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
9	132	表1.89 COPY 命令の影響ドキュメント	影響ドキュメントを追加。	◆参照 → 12.3
1 0	133	表1.91取込みの指定項目 (YPS記述)	「取り込み名-1」の「桁数及び記述方法」を訂正。	◆参照 → 12.4
1 1	133	表1.90取込みの記述形式 (YPS 記述) [規則の説明]	特になし	－【書き方】は、複数行に記述してもよい。但し、取込み名-1は、1行で記述しなければならない。なお、モジュール設計書出力機能では、8行以内に取込み名-1が記述されていない場合、取込みと見なさない。
1 2	134	1.6.11取込み ●注意事項	－ 取込み名を日本語名標で記述している場合は、該当の日本語名標宣言文をモジュール共通データ部に記述するか、取込みによって取り込まなければならない。外部日本語名標宣言仕様書で定義した場合は、解析対象にならず出力結果を保証しない。 (記述追加)	(記述削除) － YPS ステップカウント出力機能では、プログラム開始図記号以前に記述されている取込み命令は展開しない。
1 3	134	表1.92取込みの影響ドキュメント	影響ドキュメントを追加。	◆参照 → 12.5
1 4	137	2.1.1.3 PARMパラメタ モジュール設計書、YPS モジュール一覧表出力、エディタ上部品出力機能のパラメタ	[SIZE { $\frac{4}{n}$ } ,]	[SIZE ($\frac{0}{n}$) ,]
1 5	137	2.1.1.3 PARMパラメタ 1) オーバーレイID変更パラメタ (帳票識別子=変更後オーバーレイID)	当パラメタは、SYSIN 制御文においても指定が可能であり、両方で同じオーバーレイIDの指定があった場合はSYSIN 制御文が優先される。	当パラメタは、SYSIN 制御文においても指定が可能であり、両方で同じ帳票識別子に対するオーバーレイIDの指定があった場合はSYSIN 制御文が優先される。
1 6	138	2.1.1.3 PARMパラメタ 表 2 . 2 帳票識別子一覧	指定が有効となる帳票を示す記述の列を追加。	◆参照 → 12.6
1 7	139	2.1.1.3 PARMパラメタ モジュール設計書、YPS モジュール一覧表出力、エディタ上部品出力機能のパラメタ	4) メモリサイズパラメタ (SIZE (n)) EXSPECは、プログラム内部でGETMAIN マクロ命令を発行してメモリ上に領域を確保している。SIZEパラメタは、メモリサイズの制限を指定するものであり、キロバイト (KB) 単位で '4' から '80' の間で指定する。省略された場合 '4' が指定されたものとみなす。	4) メモリサイズパラメタ (SIZE (0/n)) EXSPECは、プログラム内部でGETMAIN マクロ命令を発行してメモリ上に領域を確保している。SIZEパラメタは、メモリサイズの制限を指定するものであり、n の値はキロバイト (KB) 単位で '4' から '80' の間で指定する。省略された場合、'0' が指定されたものとみなす。なお、'0' を指定した場合メモリサイズは制限されずに使用可能な最大メモリサイズで確保される。

表 1 2 . 1 適用マニュアルの正誤表 (続く)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
			<p>10) YPS 仕様書ライブラリパスワード指定パラメタ (PW=YPS仕様書ライブラリパスワード)</p> <p>このパラメタは、解析対象とするYPS 仕様書ライブラリがGEM でかつパスワードが設定されている場合に指定する。以下の形式で、それぞれのライブラリに対してパスワードを指定する。ただし、コピーライブラリ及びインクルードライブラリがGEM でパスワードを指定する場合は、SYSIN 制御文にて指定しなければならない。</p> <p>PW=YPS仕様書ライブラリパスワード</p>	<p>10) YPS 仕様書ライブラリパスワード指定パラメタ (PW=YPS仕様書ライブラリパスワード)</p> <p>このパラメタは、解析対象とするYPS 仕様書ライブラリまたは入力部品ライブラリがGEM でかつパスワードが設定されている場合に指定する。以下の形式で、それぞれのライブラリに対してパスワードを指定する。ただし、コピーライブラリ及びインクルードライブラリがGEM でパスワードを指定する場合は、SYSIN 制御文にて指定しなければならない。</p> <p>PW=YPS仕様書ライブラリパスワード</p> <p>また、SYSIN 制御文でYPS 仕様書ライブラリのライブラリパスワードが設定されていた場合、SYSIN 制御文に記述されているYPS 仕様書ライブラリのGEM ライブラリパスワードが優先される。</p> <p>YPS 仕様書ライブラリパスワード指定パラメタで設定されたライブラリパスワードはJCL リストに出力される。</p>
1 8	142	2.1.1.3 PARMパラメタ YPS ステップカウント出力機能のパラメタ	<p>[SIZE { $\frac{4}{n}$ } ,]</p> <p>[PW=1 (YPS ソースライブラリパスワード), 2 (コピーライブラリパスワード), 3 (インクルードライブラリパスワード), 4 (名標ライブラリパスワード), 5 (構文ライブラリパスワード),]</p> <p>2) ラインカウントパラメタ (LC=88/LC=66)</p> <p>このパラメタは、ドキュメント出力時のモードを指定するもので、通常8LPIで出力するドキュメントを 'LC=66' を指定することにより、6LPIでも出力可能となる。</p>	<p>[SIZE ($\frac{0}{n}$) ,]</p> <p>[PW=1 (YPS 仕様書ライブラリパスワード), 2 (コピーライブラリパスワード), 3 (インクルードライブラリパスワード), 4 (名標ライブラリパスワード), 5 (構文ライブラリパスワード),]</p> <p>2) ラインカウントパラメタ (LC=88/LC=66)</p> <p>このパラメタは、ドキュメント出力時のモードを指定するもので、通常8LPIで出力するドキュメントを 'LC=66' を指定することにより、6LPIでも出力可能となる。</p> <p>なお、このパラメタを変更する場合は、実行ジョブ制御文のJSMY LOO1 DD 文の用紙制御イメージ名とオーバーレイ名をそれぞれ対応するものに変更する必要がある。</p>
1 9	143	2.1.1.3 PARMパラメタ YPS ステップカウント出力機能のパラメタ	<p>3) メモリサイズパラメタ (SIZE (4/n))</p> <p>EXSPECは、プログラム内部でGETMAIN マクロ命令を発行してメモリ上に領域を確保している。SIZEパラメタは、メモリサイズの制限を指定するものであり、キロバイト (KB) 単位で '4' から '80' の間で指定する。省略された場合、'4' が指定されたものとみなす。</p>	<p>3) メモリサイズパラメタ (SIZE (0/n))</p> <p>EXSPECは、プログラム内部でGETMAIN マクロ命令を発行してメモリ上に領域を確保している。SIZEパラメタは、メモリサイズの制限を指定するものであり、nの値はキロバイト (KB) 単位で '4' から '80' の間で指定する。省略された場合、'0' が指定されたものとみなす。なお、'0' を指定した場合メモリサイズは制限されずに使用可能な最大メモリサイズで確保される。</p>

表12.1 適用マニュアルの正誤表(続く)

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
			<p>4) ライブラリパスワード指定(PW=1(YPS ソースパスワード), 2(コピーライブラリパスワード), 3(インクルードライブラリパスワード), 4(名標ライブラリパスワード), 5(構文ライブラリパスワード))</p> <p>このパラメータは、解析対象とするライブラリがGEM でかつパスワードが設定されている場合に指定する。</p>	<p>4) ライブラリパスワード指定(PW=1(YPS 仕様書ライブラリパスワード), 2(コピーライブラリパスワード), 3(インクルードライブラリパスワード), 4(名標ライブラリパスワード), 5(構文ライブラリパスワード))</p> <p>このパラメータは、解析対象とするライブラリがGEM でかつパスワードが設定されている場合に指定する。</p> <p>また、SYSIN 制御文で各々のライブラリパスワードが設定されていた場合、各制御文に記述されるGEM ライブラリパスワードが優先される。</p> <p>ライブラリパスワード指定で設定された各ライブラリパスワードはJCL リストに出力される。</p>
			<p>6) CSVファイル出力指定パラメータ(CSV/NOCSV)</p> <p>このパラメータは、YPS ステップカウント情報をCSV形式でのファイル出力を指定するパラメータである。ただし、帳票出力指定パラメータにNOLISTを指定する場合は、NOCSV パラメータを指定することができない。</p>	<p>6) CSVファイル出力指定パラメータ(CSV(1/2)/NOCSV)</p> <p>このパラメータは、YPS ステップカウント情報をCSV形式でのファイル出力を指定するパラメータである。本製品V23L10のCSVファイルの形式(以降、旧形式CSVファイルと記述)で出力する場合は"CSV" または"CSV(1)"を指定する。また、V23L20以降のCSVファイルの形式(以降、新形式CSVファイルと記述)を出力する場合は"CSV(2)"を指定する。ただし、帳票出力指定パラメータにNOLISTを指定する場合は、NOCSV パラメータを指定することができない。</p>
20	143	表2.3 制御文一覧	新制御文(FCB, YPW, NPW, KPW制御文)の説明を追加。	◆参照 → 12.7
21	148	2.1.2.1 REPORT制御文 [注意事項]	(記述追加)	<ul style="list-style-type: none"> YPS ステップカウント出力機能では、GROUP 制御文より前にREPORT制御文を指定する必要がある。
22	151	2.1.2.4 SORT制御文 [注意事項]	(記述追加)	<ul style="list-style-type: none"> YPS ステップカウント出力機能では、オペランド指定ごとに小計が出力される。
23	152	2.1.2.5 OVL 制御文 [オペランドの説明]	指定可能な機能の説明を追加。	◆参照 → 12.8
24	153	2.1.2.5 OVL 制御文 [注意事項]	オーバーレイIDの指定は、PARMパラメータにおいても指定することができる。ただし、PARMパラメータとOVL 制御文で同時に指定したオーバーレイIDは、SYSIN 制御文の方が優先される。	オーバーレイIDの指定は、PARMパラメータにおいても指定することができる。ただし、PARMパラメータとOVL 制御文で同時に同一の帳票識別子に対して指定したオーバーレイIDは、SYSIN 制御文の方が優先される。
25	153	2.1.2 SYSIN 制御文	新制御文(FCB制御文)の説明を追加。	◆参照 → 12.9

表 1 2 . 1 適用マニュアルの正誤表 (続く)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
2 6	153	2.1.2.6 CPW 制御文	CPW 制御文は、使用するコピーライブラリがGEM で、かつパスワード保護されている場合に、パスワードを指定することによってEXSPECで参照可能にするための制御文である。 YPS ステップカウント出力機能では指定できない。	CPW 制御文は、使用するコピーライブラリがGEM で、かつパスワード保護されている場合に、パスワードを指定することによってEXSPECで参照可能にするための制御文である。 CPW 制御文で指定されたコピーライブラリのGEM ライブラリパスワードは'*' に置き換えて制御文リストに出力される。
2 7	154	2.1.2.6 CPW 制御文 [オペランドの説明]	PW1 モジュール設計書を出力する際のJCL 中のDD文(JSMYD102)に指定したコピーライブラリ (GEM)のライブラリパスワードを示す。	PW1 モジュール設計書またはYPS ステップカウントリストを出力する際のJCL 中のDD文 (JSMYD102) に指定したコピーライブラリ (GEM) のライブラリパスワードを示す。
2 8	154	2.1.2.6 CPW 制御文 [注意事項]	(記述追加)	－ PARMパラメタでコピーライブラリのGEM ライブラリパスワードが設定されている場合、CPW 制御文に記述されているコピーライブラリのGEM ライブラリパスワードが優先される。
2 9	154	2.1.2.7 IPW 制御文	IPW 制御文は、使用するインクルードライブラリがGEM で、かつパスワード保護されている場合に、パスワードを指定することによってEXSPECで参照可能にするための制御文である。 YPS ステップカウント出力機能では指定できない。	IPW 制御文は、使用するインクルードライブラリがGEM で、かつパスワード保護されている場合に、パスワードを指定することによってEXSPECで参照可能にするための制御文である。 IPW 制御文で指定されたインクルードライブラリのGEM ライブラリパスワードは'*' に置き換えて制御文リストに出力される。
3 0	155	2.1.2.7 IPW 制御文 [オペランドの説明]	PW1 モジュール設計書を出力する際のJCL 中のDD文(JSMYD103)に指定したインクルードライブラリ (GEM) のライブラリパスワードを示す。	PW1 モジュール設計書またはYPS ステップカウントリストを出力する際のJCL 中のDD文(JSMYD103)に指定したインクルードライブラリ (GEM) のライブラリパスワードを示す。
3 1	155	2.1.2.7 IPW 制御文 [注意事項]	(記述追加)	－ PARMパラメタでインクルードライブラリのGEM ライブラリパスワードが設定されている場合、IPW 制御文に記述されているコピーライブラリのGEM ライブラリパスワードが優先される。
3 2	155	2.1.2 SYSIN 制御文	新制御文 (YPW, NPW, KPW制御文)の説明を追加。	◆参照 → 12.10
3 3	161	2.2 ヘッダー部と変更履歴部 [注意事項]	変更履歴 (コメント) は最大99個 (初版も含む) までのうち、最新のものを3 個出力する。	変更履歴 (コメント) は最大99個 (初版は含まない) までのうち、最新のものを3 個出力する。
3 4	174	2.4.5.1 変更履歴一覧表の出力形式 [注意事項]	変更履歴は最大99個 (初版も含む) まで出力する。	変更履歴は最大99個 (初版は含まない) まで出力する。

表12.1 適用マニュアルの正誤表(続く)

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
35	228	表2.20 モジュール設計書出力機能に必要なDD文一覧	JSMYD103 : GEM またはPOのYPS インクルードライブラリのデータセットを指定するDD文である.	JSMYD103 : GEM またはPOのYPS インクルードライブラリのデータセットを指定するDD文である. POで複数のインクルードライブラリを使用している場合はインクルードライブラリを連結して指定する.
			SYSYINC(YINC) : YPS/COBOL(V11)が使用するインクルード仕様書データセットを指定する.	SYSYINC(YINC) : YPS/COBOL(V11)が使用するインクルード仕様書データセットを指定する. JSMYD103に指定したデータセットと同一のデータセットを指定する.
			SYSYIN(YIN) : YPS/COBOL(V11)が使用するYPS 仕様書データセットを指定する.	SYSYIN(YIN) : YPS/COBOL(V11)が使用するYPS 仕様書データセットを指定する. JSMYD101に指定したデータセットと同一のデータセットを指定する.
36	260	2.7.4.1 YPS ステップカウンタリストの出力形式 [図2.57の説明]	項目の説明を一部追加. ◆参照 → 12.11	
37	261	2.7.5 YPS ステップ情報CSV ファイル出力機能	指定したYPS 資産を解析し, YPS 資産および組込み資産のステップ数をCSV ファイルに出力する. CSV ファイルは, パソコンに取り込むことにより表計算ソフトでの編集・印刷が可能となる. なお, 各情報は”1.6 YPS 仕様書記述規約”に準じた形式で書かれていることを前提にしており, 正しく出力されていない場合は, 上記記述規約を参照されたい.	指定したYPS 資産を解析し, YPS 資産および組込み資産のステップ数をCSV ファイルに出力する. CSV ファイルは, パソコンに取り込むことにより表計算ソフトでの編集・印刷が可能となる. 出力するCSV ファイル形式は, 旧形式と新形式の2種類があるため, 実行時のPARMパラメタ指定によって選択する. なお, 各情報は”1.6 YPS 仕様書記述規約”に準じた形式で書かれていることを前提にしており, 正しく出力されていない場合は, 上記記述規約を参照されたい.
38	264	2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式	表のタイトルを追加. ◆参照 → 12.12	
			表を追加. ◆参照 → 12.13	
39	265	2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式	— YPS ステップカウンタ情報出力形式	— YPS ステップカウンタ情報出力形式 (旧形式CSV)
			新形式ファイルの説明を追加. ◆参照 → 12.14	
			— コピー句ステップカウンタ情報出力形式	— コピー句ステップカウンタ情報出力形式 (旧形式CSV, 新形式CSV)
			— インクルード句ステップカウンタ情報出力形式	— インクルード句ステップカウンタ情報出力形式 (旧形式CSV, 新形式CSV)
			タイトル, 説明を訂正. ◆参照 → 12.15	
			新形式ファイルの説明を追加. ◆参照 → 12.16	

表 1 2 . 1 適用マニュアルの正誤表 (続 く)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
4 0	266	2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式	タイトル, 説明を訂正.	◆参照 → 12.17
			新形式ファイルの説明を追加.	◆参照 → 12.18
4 1	269	表2.26 YPSステップカウント出力機能に必要なDD文一覧	データセットのレコード長を訂正.	◆参照 → 12.19
			JSMYD102 : COPYライブラリのデータセットを指定するDD文である. JSMYD103 : YPS インクルードライブラリのデータセットを指定するDD文である.	JSMYD102 : COPYライブラリのデータセットを指定するDD文である. POで複数のCOPYライブラリを使用している場合はCOPYライブラリを連結して指定する. JSMYD103 : YPS インクルードライブラリのデータセットを指定するDD文である. POで複数のインクルードライブラリを使用している場合はインクルードライブラリを連結して指定する.
4 2	270	2.7.6.2 YPS ステップカウント出力機能に必要なデータセット 図2.60	//CSVOUT DD DSN=P10000.CSVOUT, DISP=(NEW, CATLG), SPACE=(CYL, (1, 1)), // DCB=(LRECL=224, BLKS IZE=2244, RECFM=VB), VOL=SER=USR703, // UNIT=SYSDA	//CSVOUT DD DSN=P10000.CSVOUT, DISP=(NEW, CATLG), SPACE=(CYL, (1, 1)), // DCB=(LRECL=569, BLKS IZE=5694, RECFM=VB), VOL=SER=USR703, // UNIT=SYSDA
4 3	271	2.7.6.2 YPS ステップカウント出力機能に必要なデータセット 図2.61	¥ FD CSVOUT=DA, VOL=USR703, CYL=(1, 1), DISP=CATLG, ¥ FCB=(LRECL=224, BLKS IZE=2244, RECFM=VB, DSORG=PS)	¥ FD CSVOUT=DA, VOL=USR703, CYL=(1, 1), DISP=CAT, ¥ FCB=(LRECL=569, BLKS IZE=5694, RECFM=VB, DSORG=PS)
4 4	275	2. 9 コメントキーワードのカスタマイズ方法 1) カスタマイズファイルの記述形式	記述バイト位置を訂正.	◆参照 → 12.20
4 5	285 299 316	3.1 モジュール設計書出力のメッセージ一覧 JSMYK035-U JSMYLO30-U JSMYN039-U	データセットの指定に誤りがあります. [メッセージの意味] 指定された入力データセットが空であるか, YPS 仕様書が登録されていない.	データセットの指定に誤りがあります. [メッセージの意味] 指定された入力データセットにYPS 仕様書が登録されていない.
4 6	293 301 325	3.1 モジュール設計書出力のメッセージ一覧 JSMYK070-S JSMYLO39-S JSMYN084-S	(記述追加)	指定されたSYSIN制御文では処理可能なメンバが存在しません. [メッセージの意味] 指定されたSYSIN制御文では処理対象となるメンバが存在しない. [システムの処理] 処理を中止する. [利用者の処置] SYSIN 制御文を指定し直して再度実行する.

表 1 2 . 1 適用マニュアルの正誤表 (続 く)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
4 7	318 319	3.1 モジュール設計書出力のメッセージ一覧 JSMYN049-W JSMYN050-W JSMYN051-W JSMYN052-W JSMYN053-W JSMYN054-W JSMYN055-W JSMYN056-W	…ステップ数が7桁を超えました . …	…ステップ数が8桁を超えました . …
4 8	324	3.1 モジュール設計書出力のメッセージ一覧 JSMYN079-E	EXECパラメタにNOLIST , NOCSVを同時に指定できません. [メッセージの意味] EXECパラメタに, NOLIST , NOCSV が同時に指定された. [システムの処理] 処理を中止する. [利用者の処置] NOLIST, NOCSV のいずれ かの指定を削除し, 再度実行する .	EXECパラメタにNOLIST , NOCSVを同時に指定できません. [メッセージの意味] EXECパラメタに, NOLIST , NOCSV が同時に指定された. [システムの処理] 当メッセージを出力し処理 を続行する. [利用者の処置] NOLIST, NOCSV のいずれ かの指定を削除し, 再度実行する .
4 9	354	付録B D A S D 容量見積り	付表B. 1 モジュール設計書出力機能のD A S D容量見積り セクション情報ファイルの必要トラック数見積り式の訂正. 注釈記述の訂正. ◆参照 → 12.21	
			付表B. 2 YPSモジュール一覧表出力機能のD A S D容量見積り モジュール一覧ファイルの必要トラック数見積り式の訂正. 注釈記述の訂正. ◆参照 → 12.22	
5 0	355	付録B D A S D 容量見積り	付表B. 3 エディタ上部品出力機能のD A S D容量見積り ~ (注) nは任意の整数を示す. 上記見積りはF6425 の場合である.	付表B. 3 エディタ上部品出力機能のD A S D容量見積り ~ (注) nはブロック化係数を示す. 上記見積りはF6425 の場合である.
			付表B. 4 YPSステップカウント出力機能のD A S D容量見積り コメント解析ファイルの必要トラック数見積り式の追加. ステップ数集計ファイルの必要トラック数見積り式の訂正. 注釈記述の訂正. ◆参照 → 12.23	
			(記述追加)	【参考】区分編成ファイルのディレクトリブロック数の見積り ・MSP : 2 1メンバ/ 1 ブロック ディレクトリブロック数=SYSIN 制御文で出力指示したモジュールの総数/21 ・XSP : 2 5メンバ/ 1 ブロック ディレクトリブロック数=UIN 制御文で出力指示したモジュールの総数/25 ※XSP でディレクトリブロックをLONGで作成した場合, 1 2メンバ/ 1ブロック となる.

表 1 2 . 1 適用マニュアルの正誤表 (続き)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
5 1	370	付録F 制限事項及び注意事項 ●YPS 仕様書における記述について	<p>4) 文字列リテラル内に☆を記述する場合には、次の制限がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> － PARMパラメタにYPSVL=V10を指定した場合☆を文字列と認識せずコメントとみなしてしまう。 － PARMパラメタにYPSVL=V11を指定した場合 リテラル中の文字データとして認識する。但し、リテラルは同じ文字でなければならない。全角・半角の混在及び単(´)複(´´)の混在は許されない。これに従わない場合は、☆はコメントとして解釈される。 	<p>4) 文字列リテラル内に☆を記述する場合には、次の制限がある。なお、文字列リテラルの記述形式としては、1文内に出現するリテラルは2つで、同じ文字でなければならない。全角・半角の混在及び単(´)複(´´)の混在は許されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> － PARMパラメタにV11を指定した場合 ☆は文字列リテラル中の1文字とみなす。 － PARMパラメタにV10を指定した場合 ☆を文字列と認識せずコメントとみなす。
			(記述追加)	<p>6) COPY命令がOF修飾されている場合、OF修飾の記述は無視される。コピーライブラリとして指定されているデータセット中で、最初に見つかったCOPY命令に指定されているコピー句が解析対象となる。</p> <p>7) 条件付き翻訳機能を評価する(条件により展開させる)ことはできない。</p> <p>8) 日本語名標が重複している日本語名標宣言文は、先頭の日本語名標宣言文が有効となる。</p> <p>9) 日本語名標宣言文は、コメントを含め複数行に記述してもよい。</p> <p>10) 日本語名標宣言文の文字列2(翻訳時に置き換えるCOBOLの文字列)を省略した場合、空白が指定されたものとする。使用している場合、出力結果は保証されない。</p> <p>11) YPS 仕様書で一つの文が複数行にわたって継続されている場合、語の途中で継続することはできない。</p> <p>12) YPS ステップカウント出力機能において、インクルード展開されたYPS 仕様書内で使用されている日本語名標は変換できない。</p>
5 2	371	付録F 制限事項及び注意事項 ● 運用について	<p>2) モジュール設計書出力機能(JSMY0700)を使用する場合は、PARMパラメタの指定はMSP,FSPとも100文字までしか指定できない。それ以上の文字を指定したい場合は、SYSIN制御文でオーバーレイIDの変更が可能である。</p>	<p>2) PARMパラメタの指定はMSP, XSPとも100文字までしか指定できない。それ以上の文字を指定した場合は無視される。それ以上の文字を指定したい場合は、SYSIN制御文で指定可能なGEM パスワードおよびオーバーレイIDの変更が可能である。</p>
			<p>4) YPS ステップカウント出力機能(JSMY0720)において、計測可能なステップ数の桁数は最大7桁までであり、それを超えた場合は桁あふれが発生する。</p>	<p>4) YPS ステップカウント出力機能(JSMY0720)において、計測可能なステップ数の桁数は最大8桁までであり、それを超えた場合は桁あふれが発生する。</p>
5 3	—	付録G PF-EX SPECのプロフィール取得方法	プロフィール通知の説明を追加	◆参照 → 12.24

1 2 . 1 表1.86 COPY命令の指定項目 (YPS記述)

【旧記述】

内 容	桁数及び記述方法
~	
コピー句名-1	コピー句名をそのまま記述する場合 8 文字以内の全角か半角の英数字で記述する。 但し、【書き方-2】の場合は、半角の英数字で記述する。 日本語名標を使用する場合 全角で記述し、モジュール共通データ部で日本語名標を定義する。 但し、YPS ステップカウント出力機能では、日本語名標でのコピー句の場合、出力結果を保証しない。
~	

【新記述】

内 容	桁数及び記述方法
~	
コピー句名-1	コピー句名をそのまま記述する場合 8 文字以内の全角か半角の英数字とし、1 行で記述する。 日本語名標を使用する場合 全角で記述し、モジュール共通データ部で日本語名標を定義する。 但し、YPS ステップカウント出力機能のREPORT制御文でCPY が単独で指定された場合は、日本語名標は有効とならない。
~	

1 2 . 2 表1.87 COPY命令の記述形式

【旧記述】

記述形式
【書き方-1】 ┌ [☆コメント-1 ☆] COPY コピー句名-1 [☆コメント-2 ☆]
【書き方-2】 COPY コピー句名-2 [* > コメント-3]

【新記述】

記述形式
【書き方-1】 ┌ [☆コメント-1 ☆] COPY コピー句名-1 [REPLACING 文字列-1 BY 文字列-2] [☆コメント-2 ☆]
【書き方-2】 (目的言語記述内での記述) COPY コピー句名-2 [REPLACING 文字列-1 BY 文字列-2] [* > コメント-3]

1 2 . 3 表1.89 COPY命令の影響ドキュメント

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など
YPS ステップカウントリスト	コピー句	COPY命令が記述されていた場合、コピー句の有効ステップ数が出力される。
YPS ステップカウントリストに続いて出力されるコピー句一覧	コピー句ID	COPY命令が記述されていた場合、コピー句のコピー句IDが出力される。
	コピー句	上記コピー句IDの有効ステップ数が出力される。

1 2 . 4 表1.91 取込みの指定項目 (YPS記述)

【旧記述】

内 容	桁数及び記述方法
取込み名- 1	取込み名をそのまま記述する場合 8 文字以内の全角か半角の英数字で記述する。 日本語名標を使用する場合 全角で記述し、モジュール共通データ部で日本語名標を定義する。

【新記述】

内 容	桁数及び記述方法
取込み名- 1	取込み名をそのまま記述する場合 8 文字以内の全角か半角の英数字とし、1 行で記述する。

1 2 . 5 表1.92 取込みの影響ドキュメント

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など
YPS ステップカウントリスト	YPSINC	取込みが記述されていた場合、YPS インクルードの有効ステップ数が出力される。
YPS ステップカウントリストに続いて出力されるインクルード句一覧	インクルード句ID	取込みが記述されていた場合、YPS インクルードのインクルード句IDが出力される。
	YPSINC	上記インクルード句IDの有効ステップ数が出力される。

1 2 . 6 表2.2 帳票識別子一覧

【旧記述】

帳票識別子	帳 票 名
H	モジュール設計書 (表紙)
~	~
DK	データ項目定義リスト
P	YPS モジュール一覧表
I	エディタ上部品一覧表
B	エディタ上部品リスト

【新記述】

帳票識別子	帳 票 名	下記機能実行時に指定が有効
H	モジュール設計書 (表紙)	モジュール設計書出力機能
~	~	~
DK	データ項目定義リスト	
P	YPS モジュール一覧表	YPS モジュール一覧表出力機能
I	エディタ上部品一覧表	エディタ上部品出力機能
B	エディタ上部品リスト	

1 2 . 7 表2.3 制御文一覧

【旧記述】

制御文名	機 能
REPORT制御文	出力するドキュメントを選択する
~	~
OVL制御文	オーバーレイIDの変更を行う
~	~
IPW制御文	インクルード制御文(GEM) のパスワードの指定を行う

【新記述】

制御文名	機 能
REPORT制御文	出力するドキュメントを選択する
~	~
OVL制御文	オーバーレイIDの変更を行う
FCB制御文	用紙制御イメージ識別名の指定を行う
~	~
IPW制御文	インクルード制御文(GEM) のパスワードの指定を行う
YPW制御文	YPS 仕様書ライブラリ (GEM) のパスワードの指定を行う
NPW制御文	外部日本語名標ライブラリ (GEM) のパスワードの指定を行う
KPW制御文	外部構文定義ライブラリ (GEM) のパスワードの指定を行う

1 2 . 8 2.1.2.5 OVL 制御文

【旧記述】

[オペランドの説明]

H
～
～
DK
P
I
B

モジュール設計書（表紙）のオーバーレイIDの指定をする。
～
データ項目定義のオーバーレイIDの指定をする。
YPS モジュール一覧表のオーバーレイIDの指定をする。
エディタ上部品一覧表のオーバーレイIDの指定をする。
エディタ上部品リストのオーバーレイIDの指定をする。

【新記述】

[オペランドの説明]

・モジュール設計書出力機能で有効な帳票識別子
H
～
～
DK
P
I
B

モジュール設計書（表紙）のオーバーレイIDの指定をする。
～
データ項目定義のオーバーレイIDの指定をする。
・YPS モジュール一覧表出力機能で有効な帳票識別子
YPS モジュール一覧表のオーバーレイIDの指定をする。
・エディタ上部品出力機能で有効な帳票識別子
エディタ上部品一覧表のオーバーレイIDの指定をする。
エディタ上部品リストのオーバーレイIDの指定をする。

1 2 . 9 2.1.2 SYSIN 制御文

【旧記述】

(記述追加 (2.1.2.6 CPW制御文の前))

【新記述】

2.1.2.5-1 FCB制御文

FCB 制御文は、6LPIまたは8LPIの用紙制御イメージ識別名を指定する。

当制御文は省略可能である。また当制御文は複数記述できる。YPS ステップカウント出力機能では指定できない。FCB 制御文の記述形式を表2.9-1 に示す。

表2.9-1 FCB制御文の記述形式

命 令	オ ペ ラ ン ド
FCB	$\left\{ \begin{array}{l} 6L \\ 8L \end{array} \right\} = \text{用紙制御イメージ識別名} \left[, \left\{ \begin{array}{l} 6L \\ 8L \end{array} \right\} = \text{用紙制御イメージ識別名} \right]$

[オペランドの説明]

6L

6LPIの用紙制御イメージ識別名を指定する。

8L

8LPIの用紙制御イメージ識別名を指定する。

[注意事項]

- 当制御文またはオペランドを省略した場合、システム標準の用紙制御イメージ名が指定されたものとみなす。
- 同じオペランドを複数指定した場合、最後に指定したオペランドが有効になる。

1 2 . 1 0 2.1.2 SYSIN 制御文

【旧記述】

(記述追加 (2.1.2.8 特記事項の前))

【新記述】

2.1.2.7-1 YPW制御文

YPW 制御文は、使用するYPS 仕様書ライブラリがGEM で、かつパスワード保護されている場合に、パスワードを指定することによってEXSPECで参照可能にするための制御文である。

YPW 制御文で指定されたYPS 仕様書ライブラリのGEM ライブラリパスワードは' * ' に置き換えて制御文リストに出力される。

YPW 制御文の記述形式を表2.11-1に示す。

表2.11-1 YPW制御文の記述形式

命 令	オ ペ ラ ンド
YPW	PW= パスワード

[オペランドの説明]

PW

モジュール設計書、YPS ステップカウントリストまたはエディタ上部品リストを出力する際のJCL 中のDD文(JSMYD101)に指定したYPS 仕様書ライブラリまたは入力部品ライブラリ (GEM) のライブラリパスワードを示す。

[注意事項]

- PARMパラメタでYPS 仕様書ライブラリのGEM ライブラリパスワードが設定されている場合、YPW 制御文に記述されているYPS 仕様書ライブラリのGEM ライブラリパスワードが優先される。

2.1.2.7-2 NPW制御文

NPW 制御文は、使用する外部日本語名標ライブラリがGEM で、かつパスワード保護されている場合に、パスワードを指定することによってEXSPECで参照可能にするための制御文である。

NPW 制御文で指定された外部日本語名標ライブラリのGEM ライブラリパスワードは' * ' に置き換えて制御文リストに出力される。

NPW 制御文の記述形式を表2.11-2に示す。

表2.11-2 NPW制御文の記述形式

命 令	オ ペ ラ ンド
NPW	PW= パスワード

[オペランドの説明]

PW

YPSステップカウントリストを出力する際のJCL 中のDD文(JSMYD105)に指定した外部日本語名標ライブラリ (GEM) のライブラリパスワードを示す。

[注意事項]

- YPS ステップカウントリストを出力する際にPARMパラメタで外部日本語名標ライブラリのGEM ライブラリパスワードが設定されている場合、NPW 制御文に記述されてい

る外部日本語名標ライブラリのGEM ライブラリパスワードが優先される。

2.1.2.7-3 KPW 制御文

KPW 制御文は、使用する外部構文定義ライブラリがGEM で、かつパスワード保護されている場合に、パスワードを指定することによってEXSPECで参照可能にするための制御文である。

KPW 制御文で指定された外部構文定義ライブラリのGEM ライブラリパスワードは'*' に置き換えて制御文リストに出力される。

KPW 制御文の記述形式を表2.11-3に示す。

表2.11-3 KPW制御文の記述形式

命 令	オ ペ ラ ン ド
KPW	PW= パスワード

[オペランドの説明]

PW

YPSステップカウンタリストを出力する際のJCL 中のDD文(JSMYD106)に指定した外部構文定義ライブラリ(GEM) のライブラリパスワードを示す。

[注意事項]

- YPS ステップカウンタリストを出力する際にPARMパラメタで外部構文定義ライブラリのGEM ライブラリパスワードが設定されている場合、KPW 制御文に記述されている外部構文定義ライブラリのGEM ライブラリパスワードが優先される。

1 2 . 1 1 2.7.4.1 YPS ステップカウンタリストの出力形式

【旧記述】

①～⑥, ⑧～⑩, ⑰～⑱については、“2.2 ヘッダ一部と変更履歴部”を参照。

②, ⑱については、何も出力されない。

SYS , SUB , JTのいずれかが指定された場合に出力する。

⑲ 資産名

計測対象の資産総称名が表示される。

～ ～

⑳ 組込みコピー句ステップ数

COPY句の有効ステップ数が出力される。

㉑ YPS インクルードステップ数

YPS インクルードの有効ステップ数が出力される。

～ ～

【新記述】

①～⑥, ⑰～⑱については、“2.2 ヘッダ一部と変更履歴部”を参照。

②, ⑱については、何も出力されない。

SYS , SUB , JTのいずれかが指定された場合に出力する。

⑧ システムID

SYSIN 制御文のSORT制御文でSYS, SUB, JTを指定した場合に、モジュール概要定義のシステムIDが出力される。

⑨ サブシステムID

SYSIN 制御文のSORT制御文でSUB, JTを指定した場合に、モジュール概要定義のサブシステムIDが出力される。

⑩ ジョブID

SYSIN 制御文のSORT制御文でJTを指定した場合に、モジュール概要定義のジョブIDが出力される。

⑪ 資産名

計測対象の資産総称名が表示される。

～ ～

⑫ 組込みコピー句ステップ数（※）

COPY句の有効ステップ数が出力される。

⑬ YPS インクルードステップ数（※）

YPS インクルードの有効ステップ数が出力される。

～ ～

※ コピー句、インクルード句内でさらにCOPY命令、INCLUDE 命令が使用されている場合、1階層目のみ計測される。

1 2 . 1 2 2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式

【旧記述】

出力情報	項目見出し
------	-------

【新記述】

旧形式CSVファイル

出力情報	項目見出し
------	-------

1 2 . 1 3 2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

新形式CSVファイル

出力情報	項目見出し
YPSステップカウント情報	システムID サブシステムID ジョブID プログラム名 プログラムID 宣言部YPSステップ数 宣言部有効ステップ数 宣言部コメント 宣言部要約 宣言部組込みコピー句 宣言部組込みYPSINC 宣言部総ステップ数 手続部YPSステップ数 手続部有効ステップ数 手続部コメント 手続部要約 手続部組込みコピー句 手続部組込みYPSINC 手続部総ステップ数 合計YPSステップ数 合計有効ステップ数 合計コメント 合計コメント率 合計要約 合計組込みコピー句 合計組込みYPSINC 合計総ステップ数
コピー句ステップカウント情報	コピー句ID ステップ数
インクルード句ステップカウント情報	インクルード句ID ステップ数
外部日本語名標ステップカウント情報	日本語名標ID 有効ステップ数 コメント コメント率 総ステップ数
外部構文定義ステップカウント情報	外部構文ID 有効ステップ数 コメント コメント率 総ステップ数

1 2 . 1 4 2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

ー YPS ステップカウンタ情報出力形式 (新形式CSV)

, " (1)", " (2)", " (3)", " (4)", " (5)", (6), (7), (8), (9), (10), (11), (12), (13), (14) , (15), (16), (17), (18), (19), (20), (21), (22), (23), (24), (25), (26), (27)
--

(1) : システムID

SYSIN 制御文のSORT制御文でSYS, SUB, JTを指定した場合に, モジュール概要定義のシステムIDが出力される. 設定情報がない場合は, ""が出力される.

合計レコード

総合計の行は, ""が出力される.

(2) : サブシステムID

SYSIN 制御文のSORT制御文でSUB, JTを指定した場合に, モジュール概要定義のサブシステムIDが出力される. 設定情報がない場合は, ""が出力される.

合計レコード

SYSIN 制御文のSORT制御文でSYS を指定した場合に, ""が出力される.

総合計の行は, ""が出力される.

(3) : ジョブID

SYSIN 制御文のSORT制御文でJTを指定した場合に, モジュール概要定義のジョブIDが出力される. 設定情報がない場合は, ""が出力される.

合計レコード

SYSIN 制御文のSORT制御文でSYS, SUB を指定した場合に, ""が出力される.

総合計の行は, ""が出力される.

(4) : プログラム名

モジュール概要定義のプログラム名が出力される. 設定情報がない場合は, ""が出力される.

合計レコード

SYSIN 制御文のSORT制御文でSYS を指定した場合に, " システム内合計" が出力される.

SYSIN 制御文のSORT制御文でSUB を指定した場合に, " サブシステム内合計" が出力される.

SYSIN 制御文のSORT制御文でJTを指定した場合に, " ジョブ内合計" が出力される.

総合計の行は, " 総合計" が出力される.

(5) : プログラムID

プログラム開始記号に記述されたプログラムIDが出力される.

合計レコード

""が出力される.

(6) : 宣言部Y P Sステップ数～(27) : 総ステップ数は, 「2.7.4.1 Y P Sステップカウントリストの出力形式」 [図2.57の説明] (22)YPS ステップ数～(32)総ステップ数を参照.

1 2 . 1 5 2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式

【旧記述】

ー 外部日本語名標ステップカウント情報出力形式

, " (1) ", (2), (3)

(1) : インクルード句名

【新記述】

ー 外部日本語名標ステップカウント情報出力形式 (旧形式CSV)

, " (1) ", (2), (3)

(1) : 日本語名標ID

1 2 . 1 6 2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

ー 外部日本語名標ステップカウント情報出力形式 (新形式CSV)

, " (1) ", (2), (3), (4), (5)

(1) : 日本語名標ID

(2) : 有効ステップ数

(3) : コメント

(4) : コメント率

(5) : 総ステップ数

1 2 . 1 7 2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式

【旧記述】

- 外部構文定義ステップカウンタ情報出力形式

,”(1)”, (2), (3)

- (1) : インクルード句名

【新記述】

- 外部構文定義ステップカウンタ情報出力形式 (旧形式CSV)

,”(1)”, (2), (3)

- (1) : 外部構文ID

1 2 . 1 8 2.7.5.1 YPS ステップ情報CSV ファイルの出力形式

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

- 外部構文定義ステップカウンタ情報出力形式 (新形式CSV)

,”(1)”, (2), (3), (4), (5)

- (1) : 外部構文ID
- (2) : 有効ステップ数
- (3) : コメント
- (4) : コメント率
- (5) : 総ステップ数

- 合計レコード (新形式CSV)

YPS ステップカウンタリストと同様に縦の合計行を出力する。

- YPS ステップカウンタ情報

SYSIN 制御文のSORT制御文指定により、指定単位に合計行を出力する。

プログラム名欄に”ジョブ内合計”，”サブシステム内合計”，”システム内合計”を出力し、それぞれの合計を出力する。

- コピー句ステップカウンタ情報

コピー句ID欄に”総合計”を出力し、ステップ数に縦の合計を出力する。

- インクルード句ステップカウンタ情報

インクルード句ID欄に”総合計”を出力し、ステップ数に縦の合計を出力する。

- 外部日本語名標宣言ステップカウンタ情報

日本語名標ID欄に”総合計”を出力し、各ステップ数に縦の総合計を出力する。

外部構文定義ステップカウント情報

外部構文ID欄に”総合計”を出力し、各ステップ数に縦の総合計を出力する。

12.19 表2.26 YPS ステップカウント出力機能に必要なDD文一覧

【旧記述】

13	CSVOUT	<ul style="list-style-type: none"> - 計測情報CSV形式出力用ターゲット - 計測情報をCSV出力時に指定 	PS	VB	224	レコード長の倍数+4	DASD
----	--------	---	----	----	-----	------------	------

【新記述】

13	CSVOUT	<ul style="list-style-type: none"> - 計測情報CSV形式出力用ターゲット - 計測情報をCSV出力時に指定 	PS	VB	569	レコード長+4以上	DASD
----	--------	---	----	----	-----	-----------	------

12.20 2.9 コメントキーワードのカスタマイズ方法

【旧記述】

1	2		21	22	23	～
プログラム名			:	モジュール名		

↑ 標準キーワード
↑ 変更キーワード
↑ 区切り文字 ‘:’
 ‘*’ または空白を記述し、‘*’ が指定された場合は、その行をコメントと見なし、処理上無視する。

【新記述】

標準キーワードおよび変更キーワードは日本語のためシフトコードが存在する。PF1などで日本語を表示した場合には、シフトコードの分だけ詰まって表示されるため、区切り文字の位置が実際のバイト位置とはずれるので注意されたい。

1	2		23	24	25	～	
プログラム名			:	モジュール名			(バイト)

↑ 標準キーワード
↑ 変更キーワード
↑ 区切り文字 ‘:’
 ‘*’ または空白を記述し、‘*’ が指定された場合は、その行をコメントと見なし、処理上無視する。

1 2 . 2 1 付表B.1 モジュール設計書出力機能のDASD容量見積り

【旧記述】

ファイル名称	DD名	データセット 編成	レコード 形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
セクション情報ファイル	JSMYDU03	PO	FB/F	1401	レコード長の 倍数	$\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+512} * n \right]$ (注)

(注) nは任意の整数を示す。上記見積りはF6425 の場合である。

【新記述】

ファイル名称	DD名	データセット 編成	レコード 形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
セクション情報ファイル	JSMYDU03	PO	FB/F	1401	レコード長の 倍数	$\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+512} * n \right]$ (注)

(注) nはブロック化係数を示す。上記見積りはF6425 の場合である。

1 2 . 2 2 付表B.2 YPS モジュール一覧表出力機能のDASD容量見積り

【旧記述】

ファイル名称	DD名	データセット 編成	レコード 形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
モジュール一覧ファイル	JSMYDU02	PO	FB/F	328	レコード長の 倍数	$\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+512} * n \right]$ (注)

(注) nは任意の整数を示す。上記見積りはF6425 の場合である。

【新記述】

ファイル名称	DD名	データセット 編成	レコード 形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
モジュール一覧ファイル	JSMYDU02	PO	FB/F	328	レコード長の 倍数	$\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+512} * n \right]$ (注)

(注) nはブロック化係数を示す。上記見積りはF6425 の場合である。

12.23 付表B.4 YPS ステップカウント出力機能のDASD容量見積り

【旧記述】

ファイル名称	DD名	データセット 編成	ロード 形式	ロード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
ステップ数 集計ファイル	JSMYDU02	PS	FB/F	328	ロード長 の倍数	SYSIN 制御文で出力指示した プログラムの総数 * レコード長 $\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+512} * n \right]$ (注)

(注) nは任意の整数を示す。上記見積りはF6425 の場合である。

【新記述】

ファイル名称	DD名	データセット 編成	ロード 形式	ロード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
コメント解析 ファイル	JSMYDU01	PO	FB/F	3700	ロード長 の倍数	SYSIN 制御文で出力指示した プログラムの総数 $\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+512} \right] * n$ (注) (小数点以下切捨て)
ステップ数 集計ファイル	JSMYDU02	PS	FB/F	328	ロード長 の倍数	SYSIN 制御文で出力指示した プログラムの総数 $\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+512} * n \right]$ (注)

(注) nはブロック化係数を示す。上記見積りはF6425 の場合である。

12.24 付録G PF-EXSPECのプロフィール取得方法

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

付録G

PF-EXSPECの プロフィール取得方法

PF-EXSPEC のバージョンレベル等のプロフィールを、コマンドプロシジャを起動して参照したり、ユーザーから呼び出して取得したりすることができる。

ー コマンドプロシジャでのプロフィール通知 (パラメタ : PY)

プログラム名JSMYPRFOをコマンドプロシジャにより起動してプロフィールを参照する。
起動時にV/L , 修正No, 修正日付, 修正時刻, 実行ユーザID, 実行日付, 及び実行時間を表示する。

[起動用コマンドプロシジャ]

```
ALLOC DD(SYSOUT) DS(*) REU
LIB   'COBOL85ライブラリ名'
CALL  'EXSPECロードモジュールライブラリ名(JSMYPRFO)' 'PY'
```

備考：下線付の部分はユーザ用に修正する。

XSP ではSYSOUT DD 名をLIST DD 名に修正する。

[表示形式]

```
*****
*
*      SIMPLIA/PF-EXSPEC          V23/L21
*
*      修正NO *****  19/05/16
*                ①          ②      修正時刻  16.09
*                                     実行ユーザ ID L29001
*                                     実行日付  27/05/16
*                                     実行時間  19.03.49
*
*****
```

付図G.1 プロフィール参照用コマンドプロシジャと表示形式

①修正No : 製品版は'*****'が表示され、修正版は修正Noが表示される。

②修正日付: 製品版又は修正版の作成日が表示される。

ー ユーザルーチンへのプロフィール通知

プログラム名JSMYPRF1をユーザルーチンより呼び出すことによりプロフィールを取得する。

JSMYPRF1はユーザルーチンに、V/L , 修正No, 修正日付, 修正時刻, 実行ジョブ名, 実行日付及び実行時刻を通知する。

[呼出形式]

CALL 'JSMYPRF1' USING パラメタ

[パラメタの内容と説明]

レベル	項目名	属性	内容
01	パラメタ		
03	依頼パラメタ		ユーザルーチンで設定する領域
05	依頼入力区分	X(01)	'P' を設定
05	依頼処理形態	X(01)	'B' を設定
05	依頼ツール名	X(01)	'Y' を設定
05	FILLER	X(08)	
03	結果パラメタ		JSMYPRF1が設定する領域
05	ツール名	X(30)	'SIMPLIA/PF-EXSPEC'
05	バージョンレベル	X(06)	PF-EXSPEC のバージョンレベル
05	修正NO	X(10)	PF-EXSPEC の修正No
05	修正日付	X(08)	PF-EXSPEC の修正日付 (yy. mm. dd)
05	修正時刻	X(08)	PF-EXSPEC の修正時刻 (hh. mm)
05	FILLER	X(08)	
05	実行ジョブ名	X(08)	動作しているジョブ名
05	FILLER	X(08)	
05	実行日付	X(08)	JSMYPRF1の実行日付
05	実行時刻	X(08)	JSMYPRF1の実行時刻
05	リターンコード	9(02)	00: 正常 03: 入力区分エラー 04: 処理形態エラー 05: ツール名エラー
05	FILLER	X(08)	

付図G.2 JSMYPRF1の呼出形式とパラメタの内容と説明

1.3. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。

◆参照 → 4

表 1.3.1 プログラム修正事項

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	<p>モジュール設計書およびYPSステップカウンタ出力機能において、取込み図記号に拡張子付きの取込み名(例:A234.YAC)を指定すると以下のエラーメッセージが出力される。</p> <ul style="list-style-type: none"> - モジュール設計書出力機能: JSMYK051-W インクルードライブラリ中にメンバが存在しません。 メンバ名=***** ※エラーメッセージのメンバ名は文字化けしない。 - YPSステップカウンタ出力機能: JSMYN046-E インクルードライブラリ中にメンバが存在しません。 メンバ名=***** ※エラーメッセージのメンバ名が文字化けする。 <p>(対処) 上記の条件で、拡張子付きの取込み名を正しく認識しエラーメッセージが出力されないように修正した。また、エラーメッセージのメンバ名が文字化けしないように修正した。</p>	<p>JSMY0720 JSMY0722 JSMY0741</p>
2	<p>YPS ステップカウンタ出力機能において、取込み図記号にメンバ名として使用可能な特殊文字(#@¥)が含まれる取込み名を指定すると以下のエラーメッセージが出力される。</p> <ul style="list-style-type: none"> JSMYN046-E インクルードライブラリ中にメンバが存在しません。 メンバ名=***** ※エラーメッセージのメンバ名が文字化けする。 <p>(対処) 上記の条件で、メンバ名として使用可能な特殊文字が含まれる取込み名を正しく認識しエラーメッセージが出力されないように修正した。また、エラーメッセージのメンバ名が文字化けしないように修正した。</p>	<p>JSMY0720 JSMY0722</p>

